

(6) アザメ新聞

Vol.	発刊日	タイトル	テーマ・キーワード
1	平成13年12月27日	第1回検討会(H13.11.6)	自然再生事業って何？
		第2回検討会(H13.11.19)	再生事業勉強会
		河川環境再生シンポジウム(H13.12.9)	生態系を蘇らせるために
2	平成14年2月1日	第3回検討会(H13.12.19)	シンポジウムと今後の進め方について
		現地見学会(H14.1.25,27)	現地を見て今後の話を進めよう
		アザメの瀬事業を行うにあたって	現地見学会参加者及び老人会の意見
3	平成14年4月10日	第4回検討会(H14.2.1)	アザメの瀬自然再生事業の理念を提案
		第1回代表者検討会(H14.2.15)	全体図面の意見交換
		第2回代表者検討会(H14.3.11)	全体計画図の素案固まる
4	平成14年6月17日	第5回検討会(H14.4.13)	アザメの瀬自然再生事業の構想原案の提案
		今後の調査	シードバンク調査について(目的と方法)
5	平成14年7月4日	自然再生事業シンポジウム模様の紹介(H14.6.22,23)	自然再生の理念や実際の進め方、応用生態工学の役割
		シンポジウム前日の現地見学	松浦川に棲む魚たちをみてみると題した現地見学会
6	平成14年8月27日	第6回検討会開催(H14.7.16)	各関係機関への事業説明報告、今後の調査内容の説明、アザメの瀬の除草について、シードバンク調査について、事務所作成の原案(平面図、横断図)の説明
		第7回検討会開催(H14.8.20)	アザメの瀬計画平面図・横断図に対して率直な意見交換、地層調査の説明、魚介類・植物類調査の結果報告
		魚類調査の状況(H14.8.1)	魚類生息環境調査(電気ショッカーにて)
7	平成14年9月3日	地層調査実施(H14.8.22)	地層調査の実施について(堆積環境の変化を明らかにする)
		シードバンク調査のその後	シードバンク調査経過報告
		第8回検討会開催(H14.8.26)	講演会(環境にやさしいトイレ、ビジターセンター、湖内浄化と湿地浄化)
		第6回検討会のアンケート結果	第6回検討会のアンケート結果報告
8	平成14年10月7日	シードバンク調査での新たな試み(H14.8.22)	地層調査で採取した土を使用したシードバンクを実施
		第9回検討会開催(H14.9.11)	地層の結果報告、シードバンクの新たな試み
		第10回検討会開催(H14.9.27)	現地見学会及び講演会・討論会の実施
9	平成14年11月26日	第11回、第12回検討会開催	動き出したアザメの瀬、ビジターセンターを建てる？
		シードバンクの新たな試み	シードバンクの同定作業実施(H14.11.12)
		地層調査の結果(速報)	地層調査結果の速報を報告
10	平成15年1月28日	第13回検討会開催(H14.12.2)	アザメの会誕生、地層調査最終結果、シードバンク調査箇所選定報告
		第14回検討会開催(H15.1.16)	町道付帯について、案内看板(案)の紹介
11	平成15年4月18日	第15回検討会開催(H15.2.4)	工事の現状報告、今後の事業計画、今昔についての聞き取り
		第16回検討会開催(H15.2.13)	前国土交通省河川局長竹村公太郎氏による講演「川と人間」
		アザメの瀬活動開始！	アザメの瀬のすばらしさ、意義等を幅広い方々に説明
12	平成15年6月25日	第17回検討会開催(H15.3.27)	公募研究者の決定、アンケート調査の案内
		第1回アザメの瀬研究会開催(H15.4.21)	公募研究者による現地視察と意見交換会
		第18回検討会開催(H15.5.8)	仮説ビジターセンター内の展示、案内板設置、アザメの瀬の整備について
13	平成15年8月1日	第19回検討会開催(H15.6.5)	案内板設置、工事の実施状況報告
		アザメの瀬出立式(H15.6.29)	出立式の紹介
		公募研究の内容について	Vol.12で紹介した公募研究の詳しい内容
14	平成15年10月1日	第20回検討会開催(H15.7.9)	現状の問題点の把握と対策、橋改築、付帯道路の舗装について
		第21回検討会開催(H15.8.5)	子供たちを集めての検討会(環境学習に近い)
		第22回検討会開催(H15.9.4)	公募研究者の近況報告、プレハブ内の備品について、下流側の残地部の整備、今年の工事内容について
15	平成15年11月14日	第23回検討会開催(H15.10.6)	現状の問題点や課題について
		アザメの会、堤返しを実施(H15.10.12)	堤返しの実施
		九州川のワークショップin宮崎(H15.10.25～26)	ワークショップの報告
16	平成16年3月2日	第24回検討会開催(H15.11.11)	全体整備計画図の新たな構想の説明
		第25回検討会開催(H15.11.25)	アザメの瀬クリークと湿地の平面位置について
		アザメの瀬トレンチ調査実施(H15.12.9)	トレンチ調査(素掘り)による地下水位状況の確認
17	平成16年10月12日	第26回検討会開催(H16.1.9)	ビジターセンター施設見学、モニタリング道路の設計について
		第27回検討会開催(H16.2.5)	施設見学会の報告、環境学習施設に対する意見抽出
		第28回検討会開催(H16.3.2)	近況報告と環境学習施設の方針の議論
		アザメの瀬研究発表会(H16.3.18)	公募研究の成果、現状報告等
		第2回イダ嵐見学会(H16.3.21)	アザメの瀬でイダ嵐(ウグイの産卵遡上)の見学会

Vol.	発刊日	タイトル	テーマ・キーワード
18	平成16年11月11日	第29回アザメの瀬検討会(H16.4.14)	現況の報告、ビジターセンターの間取り確認、今年度工事内容
		皇太子殿下アザメの瀬視察(H16.4.24)	皇太子殿下のアザメの瀬視察報告
		第30回アザメの瀬検討会(H16.5.27)	ビジターセンター施設整備の検討(トイレ)
		アザメの瀬シンポジウムの開催(H16.5.29)	アザメの瀬シンポジウム「自然再生事業における市民参加」
19	平成17年3月31日	第31回アザメの瀬検討会(H16.6.24)	トイレの施設見学
		第32回アザメの瀬検討会(H16.7.22)	外来種対策、全国川の日ワークショップ(H17.7.10～11)参加報告
		川遊び～アザメの会主催～(H16.8.20)	川遊びのイベント開催
		第33回アザメの瀬検討会(H16.8.26)	魚の産卵調査
20	平成17年3月31日	第34回アザメの瀬検討会(H16.9.29)	整備の中間分析報告・環境学習施設の計画変更後の平面図の説明
		堤返し～アザメの会主催～(H16.10.11)	アザメの会主催の堤返しの報告
		第35回アザメの瀬検討会(H16.10.28)	環境学習施設の利用、水供給の検討内容報告、工事等について
		第36回アザメの瀬検討会(H16.11.25)	学習施設の景観、町道、電柱について
21	平成17年3月31日	第37回アザメの瀬検討会(H16.1.25)	湿田、トンボ池等の規模、個数の確認及び今後の利用について
		第38回アザメの瀬検討会(H17.2.24)	平成17年度の整備内容について現地説明会の実施
		「平成16年度 アザメの瀬研究報告会」(H16.3.10～11)	研究者報告会、現地見学会
		第3回 イダ嵐見学会(H17.3.20)	アザメの会主催のイダ嵐(ウグイの産卵遡上)見学会
22	平成17年8月25日	第40回アザメの瀬検討会(H17.4.27)	平成17年度の工事内容について議論
		第41回アザメの瀬検討会(H17.6.7)	環境学習施設名に関する意見交換、階段の位置について
		第42回アザメの瀬検討会(H17.7.26)	施設名(仮称)決定及び施設内展示パネル内容と展示物設備のアンケート調査
23	平成17年度	第43回アザメの瀬検討会(H17.8.24)	整備計画及び学習センター内の整備方針について
		第44回アザメの瀬検討会(H17.9.21)	今年度の工事箇所及び掘削土の搬出経路の説明
		第45回アザメの瀬検討会(H17.10.20)	工事の進捗状況と柵田及び魚道の構造の説明
		第46回アザメの瀬検討会(H17.11.24)	工事を進めている柵田の土についての議論
24	平成17年度	第47回アザメの瀬検討会(H18.1.17)	柵田の作物、道路の防護柵設置、外来植物への対策について
		第48回アザメの瀬検討会(H18.2.23)	工事の進捗状況、柳の植栽、魚類調査結果について
		第49回アザメの瀬検討会(H18.3.13～14)	平成17年度アザメの瀬研究報告会を開催
		第50回アザメの瀬検討会(H18.4.25)	新メンバーの紹介、工実施内容、柳の植栽について
25	平成18年度	柳の植栽！河川清掃！(H18.5.15)	柳の植樹
		第51回アザメの瀬検討会(H15.5.30)	学習センター内の改訂版パネルのアンケート調査
		第52回アザメの瀬検討会(H18.6.30)	アザメの会主催の相知小5年生と田植えイベント
26	平成18年度	第53回アザメの瀬検討会(H18.8.30)	平成18年度のアザメの瀬の工事について
		第9回「川の日」ワークショップ 結果報告(H18.7.22～23)	全国川の日ワークショップ(H18.7.22～23)参加報告
		第54回アザメの瀬検討会(H18.10.8)	アザメの会主催の伝統行事「堤返し」開催
27	平成18年度	第55回アザメの瀬検討会(H18.10.30)	サイン(アザメの瀬案内看板)計画について
			第6回九州川のワークショップin川内川 結果報告(H18.10.28～29)
			今後の行事(セイタカアワダチソウの駆除と稲刈り)について(H18.11.10)
28	平成18年度	第56回アザメの瀬検討会(H18.12.8)	今後の工事について
			モニタリング道路の舗装(色)について
			ガードパイプ(形状、色)について
			棧橋(木製)の構造について
29	平成18年度	第57回アザメの瀬検討会(H18.12.26)	その他(柵田の排水改善等について)
			道路からの排水改善
			柵田横の管理用通路の拡幅
			モニタリング道路の一部変更
			柵田最上段横の水路補修工法
30	平成18年度	第58回アザメの瀬検討会(H19.1.31)	学習センターの大掃除、セイタカアワダチソウ駆除活動報告
			工事箇所現地確認(棧橋、魚道等)
			魚道の補修工法検討
			柵田の排水改善工法検討
31	平成18年度	第59回アザメの瀬検討会(H19.2.28)	案内看板の設置提案(和田山橋付近)
			今年度の工事内容(前回の検討会の決定事項の確認)
			案内看板のデザイン検討
			パネル、ワークシートについて
		第60回アザメの瀬検討会(H19.3.18)	アザメの会主催のイダ嵐(ウグイの産卵遡上)見学会

Vol.	発刊日	タイトル	テーマ・キーワード
32	平成19年度	第61回アザメの瀬検討会(H19.5.24)	平成18年度工事箇所の見学会と平成19年度の予定について 河畔林整備について モニタリング調査について
		アザメの瀬環境学習(第62回～64回検討会を含む)	魚捕り、堤返し、田んぼの楽校
33	平成19年度	第65回アザメの瀬検討会(H20.1.31)	河畔林整備(竹の移植) 除草(セイタカアワダチソウの抜根) アザメの瀬下流湿地整備 夏休みの環境学習実施の提案
		第66回アザメの瀬検討会(H20.3.6)	下流湿地周辺の水路泥上げ&草刈、現地見学会 夏休みの環境学習の案内
34	平成20年度	平成20年4月～20年12月の活動状況(第67回～第74回検討会)	行啓記念清掃・第68回アザメの瀬検討会(H20.5.14) 田んぼの楽校・第69回アザメの瀬検討会(H20.6.27) アザメの瀬夏休み自然環境教室(H20.8.4) 田んぼの楽校(草刈)(H20.8.17) 相知小4年生環境学習(H20.10.10) 九州川のワークショップ(H20.11.1) 田んぼの楽校(稲刈り)第74回アザメの瀬検討会(H20.11.7) 自然再生フォーラムinアザメ(H20.11.8) 田んぼの楽校(収穫祭)
35	平成21年度	平成21年4月～22年3月の活動状況(第77回～第88回検討会)	行啓記念清掃(雨で中止)・第77回アザメの瀬検討会・ネイチャー佐賀と勉強会(H21.5.17) 相知小・田頭小4年生環境学習(H21.6.11)第78回アザメの瀬検討会 米作り学習会(H21.6.19) 田んぼの学校準備(H21.6.26)第80回アザメの瀬検討会 アザメの瀬全面冠水(H21.7.26) 夏休み環境学習(H21.8.22)第82回アザメの瀬検討会 堤返し(H21.11.1)第84回アザメの瀬検討会 田んぼの楽校(稲刈り)(H21.11.6)第85回アザメの瀬検討会 田んぼの楽校(収穫祭)(H21.12.4)
号外1	平成14年11月26日	アザメの瀬号外～原案の考え方～	地形勾配による川の蛇行 自然堤防と後背湿地 後背湿地の生物
号外2	平成15年2月7日	アザメの瀬号外 2(アザメの瀬シードバンクの歩み)	シードバンク調査とは 事務所職員によるシードバンク調査 地元の方々とシードバンク調査を実施 シードバンクを利用した植生の再生を計画
号外3	平成16年3月23日	アザメの瀬号外 3(アザメの瀬クレーク稚魚調査)	調査方法、調査道具、調査結果、捕獲された稚魚
号外4	平成16年9月28日	アザメの瀬号外 4(アザメの瀬中間分析)	H13年から2年半の取り組みについて効果のあったこと及び課題
号外5	平成17年7月8日	アザメの瀬号外 5(河川実地研修の実施)(H17.5.30～6.2)	実施内容、背景、目的、対象者(入省3年目～主任クラス) 調査内容(魚類調査、植物調査)考察
号外6	平成17年9月6日	アザメの瀬号外 6(河川実地研修【入門編】の実施)(H17.8.20)	実施内容、背景、目的、対象者(入省2年目) 講義、調査の概要・魚類調査、同定・計測
号外7	平成17年11月11日	アザメの瀬号外 7(河川実地研修【応用編】の実施)(H17.10.25～10.26)	実施内容、背景、目的、対象者(係長クラス)
号外8	平成18年2月6日	アザメの瀬号外 8 国際湿地シンポジウムの開催	P D C Aサイクルを用いた整備 掘削工事後の最終形 エコロジカルネットワークの確保 管理方針 環境学習 モニタリング 課題 課題への対応

☆これまでアザメと言っていましたが、先日の検討会で『アザメはアザミだ!』という意見がでたので、アザミになりました。

V o l . 1

平成13年12月27日

～○～○～○～○アザミ新聞 ○～○～○～○～

アザミ新聞は相知町佐里下地区で行われる自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。これまで3回の検討会と1回のシンポジウムが行われました。最初の2回はシンポジウムに先立ち行われた準備会的な色彩の強い検討会でした。3回目からいよいよ始まったという感じです。アザミ新聞では、現在までのアザミの瀬自然再生事業の取り組みと今後のアザミの瀬検討会の状況を連載していこうと思っています。国土交通省武雄工事事務所の若手職員が編集担当者となって参加者の一員として報告していきたいと思います。

第1回検討会 H13. 11. 6

「自然再生事業って何？」

自然再生事業って何？ということ、住民の方にたくさん集まっていただきました。武雄工事事務所から自然再生事業とは何か？について説明しました。



” 熱弁をふるう島谷事務所長 ”

(その場の雰囲気により、若輩の今村技官が説明しました。途中、島谷事務所長、大野出張所長に助けられ、何とか説明しました。)

内容は一つ目に松浦川アザミの瀬は全国で15箇所の中の1つであり、当地区のように何もない状態からのスタートは他に類が無く、そういう所から自然を再生することは大変意義深い事業であるということ。二つ目にこれまでのような行政側からの一方的な事業展開ではなく、住民参加により住民と一体となって一から作り上げていくという事業である。などを説明しました。会場からは自然再生事業に対する真剣な質問が飛び交いました。

第2回検討会 H13. 11. 19

「再生事業勉強会」

第2回検討会では、自然再生に関する専門家3名を招いて勉強会を行いました。3名の方の講演の後、参加者との意見交換を行いました。

● 萱場 祐一氏 (自然共生研究センター長)

題目「米国における自然再生事業」

萱場さんにはアメリカでの自然再生事業がどのように行われているのかを話していただきました。直線化してしまった河道の蛇行化や氾濫原の復元の話でした。氾濫原の復元といっても規模が大きいため、牧草地などを手当たり次第購入していくものです。土地の購入は、日本と違い企業やNPO、ボランティア団体等も行うそうです。資金の調達方法から実際の購入等に至るまでの講習会が各地で行われているそうです。

● 西廣 淳氏 (東京大学保全生態学研究室助手)

題目「氾濫原の保全生態学」

西廣さんには、植物にとって川という環境がどのようなものなのか、また洪水に適応した植物もいることを話していただきました。興味深かったのは、シードバンク (埋土種子集団) の話で、要は土の中にある生きている種のことです。地上に見られる種子の数の数十倍から数百倍の種が地下に眠っているわけです。これを利用すれば絶滅が危惧されている植物の種も地下からさがすことが出来るそうです。とても夢のある話だと思いませんか。多くの方が関心を持ち質問が沢山でした。

● 吉富 友恭氏 (自然共生研究センター特別研究員)

題目「生態的展示と総合学習」

吉富さんには、水域の展示施設の代表的な施設として水族館の最近の展示の傾向、また自然共生研究センターで実践している河川の研究解説パネルの開発、総合的な学習の時間づくりについて話してもらいました。情報を伝えるということの重要性をアメリカの事例等によりわかりやすく説明していただきました。また、研究解説パネルの説明では五感に訴えることを重視し取り組まれたそうです。総合学習ではインターネットを使い、児童達の興味関心に沿って学習を展開したり、動画を作成し研究機関と小学校の連携を考えながら進めたそうです。



アザメ新聞

平成14年2月1日発行 Vol. 2

アザメ新聞は相模川佐里下地区で行われる自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。Vol. 1では3回の検討会と1回のシンポジウムを紹介しました。さて、Vol. 2ではアザメの瀬地区に於いて現地見学会を実施しましたので状況を紹介します。同土交通省武蔵工事事務所の管手職員が編集担当者となって参加者の一員として報告していきたいと思います。

「現地見学会」開催！

1月25日、27日の両日で現地見学会を開催しました。第3回検討会の際に「現地を見て今後の話を進めよう」と関心の高い住民の方からの貴重な意見に基づき実施しました。25日は44名、27日は11名の参加がありました。

当日は非常に寒かったにもかかわらず、大勢の方が熱心に現地を歩き回られ、今後のアザメをどうするのか真剣に考え、色々な意見を頂きました。また、地元松本さんの指導のもと、投げ網を駆使して魚をとる若手職員もいました。やはり季節柄か、魚達は冬眠しているみたいで20投のうちカマツカ4匹、シマドジョウ2匹、ヨシノボリ1匹の計7匹の捕獲となりました。



“アザメの将来を期待する参加者”



“捕獲した魚を覗き込む参加者”

“日の高地山に登ってアザメの瀬を一望”



佐里下地区長老会との
懇談会も実施！



“熱心に発言される長老会の皆さん”

25日は現地見学の後、地元長老会の方々に昔の話をいただきました。いずれも貴重な話やアザメの事業に対する注意点など大変参考になりました。アザメを支えてこられた方々のためにも是非この事業を成功させたいと強く感じました。

「アザメの瀬事業を行うにあたって！」

ここでは、現地見学会参加者及び老人会の方々から頂いた意見を掲載しています。

現地見学会時の意見

- ・ 潜り橋は貴重な財産であり、できる限り残した方がよい。
できるなら、幅員をもう少し広くしていただきたい。
- ・ 洪水時には、事業用地の最上流部から水が入るので、この区間の堤防を高くして下流部から用地に水を入れた方がよい。
- ・ 竹林は、できる限り残した方がよい。
- ・ 溜池（上池、下池）は、ゴルフ場からの排水は全然ないため、水質は良い。
- ・ 溜池は部落で管理しており、稚魚を入れ毎年干して、現地で食べて楽しんでいる。
- ・ ゴルフ場の5番ホールに隣接した湿地には、まむしが多く生息している。
- ・ ゴルフ場の5番ホールに隣接した溜池は、ゴルフ場の敷地で散水などに利用されており、水質が悪い。
- ・ 災害で施工されているかごマット護岸は、そのままにして利用するのか。
- ・ 田圃は一部残して米等を子供たちに作らせたかどうか。
- ・ 上流から水を入れるのは問題。土砂がすぐに貯まる。
- ・ 道路は山側に寄せて高さを上げた方がよい。
- ・ ゴルフ場からの水は使わない方がいい。魚がすぐに死ぬ。
- ・ 上流側の笹やぶがなくなってから頻繁に水が入るようになった。
- ・ 下流の水田跡地は駐車場がよい。駐車場から散策できる遊歩道が欲しい。
- ・ 下流の水田跡地は頻繁に浸かる。
- ・ 岸岳のみもとにアートビレッジ構想があり、近くガラス工芸家が工房を構える予定。
- ・ 昔の川は今の1/2位でもっと深かった。

地元老人会から

- ・ 管理が大事。地域に応じた整備をすべき。
- ・ テナガエビがたくさんいた。藻もたくさん生えていた。昔は裸眼で魚が見えた。
- ・ 昔は物資を船で運んでいた。川に閘所があった。
- ・ 山水は石炭の水（赤水：鉄分が多い）が出てくるので使わない方がよい。使う場合はどのように使うか考えた方がいい。
- ・ 上流から水が入ると土が貯まる。1回で2mぐらいあがることもあった。
- ・ 魚介類が減っている。昭和37～8年頃までツガニ（モクズガニ）取れた。
- ・ 炭坑の水が流れるとおしるこのような色の水が流れていた。ただ炭坑の水により魚が減ったようなことはなかった。
- ・ 船は川を上下する場合は腰で水位を上げてから動かしていた。
- ・ この地域はイノシシが15年前頃から増えた。
- ・ 食用として、イダ（ウグイ）、コイ、ふな、かに、テナガエビ、メダカ、ナマズ、ドジョウ。
- ・ イダは水成岩に棲む。花崗岩には棲まない。
- ・ イダ嵐とは春一番のこと。
- ・ 橋でせき止められて上流からアザメに水が入る。
- ・ 竹藪が80%あった。おかげで水は入るがゴミは入らなかった。肥沃な土地だった。
- ・ アザメの瀬橋はイカダ橋である。昔は、当番制で洪水後のゴミの処理をしていたが、今は若手がいないためゴミをその場で燃やしているので橋が黒くなっている。
- ・ 洪水はS23、S28がひどく、毎年2～3回は畳上げをした。現在は河川改修により洪水を意識しなくなった。
- ・ 川で洗濯をしていた。
- ・ 川で泳いでいた。

☆前回のアザメ新聞では『アザメはアザミだ!』ときましたが、
『アザミじゃない昔からアザメだ!』と長老会から意見がでたので、
アザメに戻します。

編集後記

浅瀬編集長より一言

寒い日が続いていますが、アザメの瀬プロジェクトの熱意で風邪をひかないよう
みんなで頑張りましょう。

本誌は古紙100%配合の再生紙を使用しています。



アザメ新聞

平成14年4月10日発行 Vol. 3

アザメ新聞は相模川左岸下流域で行われる自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は市民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol. 3では見聞学会と懇談会の開催をお伝えしました。
さて、Vol. 3では第4回検討会及び代表者検討会での状況を紹介します。

「第4回検討会」開催！

2月1日に検討会を開催しました。
田園風景を大切に自然と共生した生活を体験できる場にする事や、松浦川水系の生き物が戻ってきて繁殖の拠点となるような場にする事を理念として提案しました。概ね理解していただいたようです。
また、今後の進め方として事務局から、7つ程度の分科会に分かれ、それぞれで話し合いを行い、全員が集まって発表しそれをまた分科会に持ち帰り意見を集約するという検討方式を提案しました。参加者からは「検討方式を議論する前に、ある程度の基本的な姿がみえるようなたたき台がほしい」との意見が出され、代表者を選出し代表者検討会を開催し、素案を作成することになりました。

“アザメの瀬自然再生事業の理念”（事務局から提出した案です）

アザメの瀬自然再生事業は、自然の中に人々の生活が溶け込んでいるような状態を目指していきたいと考えています。

1. 自然の中にある田園風景（昔の風景）
2. 魚・植物を捕って食べたり、遊んだり
3. 松浦川水系の普通に見られる生物の繁殖の拠点



検討会では、毎回多数の方々の参加があり、回を重ねる毎に白熱した議論が展開されています。
今回も住民の方からの提案により代表者検討会を開催する事になりました。

各分科会（案）として出しましたが、まだ合意にはいたっていません。

1. 運営班
・事業の計画をスムーズに進めるための手段を策定する
2. 生活文化班
・自然と共生していた暮らしの体験
3. 全体計画班
・全体の意見を整理した配置計画立案
4. 学習班
・自然を利用した学習場として、どのようにあるべきかの提案
5. 展示PR班
・アザメの瀬にしかないような展示方法の提案
6. 農業班
・水系の一部としての復元の方法と管理
7. 環境調査班
・施設設計のための情報収集
・事業の評価
・環境教育のための調査

「第1回代表者検討会」開催！

2月15日に第1回代表者検討会を開催しました。代表者検討会は前回第4回検討会で住民の方々より「たたき台となる全体計画図がほしい」という声が上がったため、代表者を選定し今回実施する運びとなりました。

検討会では、洪水時の水の入れ方や町道の取り扱いなど具体的な意見が多数出ました。代表者の皆さんは積極的に自分の意見を発言されていました。その中でも冬休みの宿題だった平面図に自分なりの構想を練って来られていた方々を見て編集員一同、その情熱にはただ驚くばかりでした。



“熱い議論を交わす代表者たち”

「第2回代表者検討会」にて全体計画図の素案固まる！

3月11日に第2回代表者検討会を開催しました。前回の代表者検討会で出た意見を事務所で集約し概略図にまとめ、それを見ながら議論しました。

今回も前回同様、代表者の方々から貴重な意見を頂きました。町道の高さや田圃の取り扱い等、具体例を交えながら有意義に議論を深めました。

国土交通省職員だけではすべてを把握することは難しく、こうやって地元の方々と密接に連絡を取り合い、こういった合意形成を図りながらの計画策定は大変意義深いことだと思います。全体計画図（素案）が概ね出来上がりましたので第5回検討会を開き、住民の方々の意見をお聞きしたいと考えています。



“全体計画図素案の前に頭を巡らせる住民の方々”



“身を乗り出して考えを語る大草欣徳さん”

「イダ嵐到来！」（春一番の嵐の時、イダ（ウグイ）が産卵のため松浦川を遡上します）



3月27日に久我安隆さんにイダ釣りを見せていただき、イダのあらいをご馳走になりました。8匹のうち、6匹も頂きました。美味しかったです。ありがとうございました。

編集員一同

本誌は古紙100%配合の再生紙を使用しています。



アザメ新聞

平成14年6月17日発行 Vol. 4

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。

この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。

Vol. 3ではアザメの瀬自然再生事業の理念や代表者検討会での模様をお伝えしました。

さて、Vol. 4では**第5回検討会の結果と今後の環境調査の考え方・方法**を紹介します。

4月の第5回検討会以来、間があいていますがこれからもっと気合いを入れて活動を再開したいと思います。

武雄工事事務所調査課のニューフェイスを紹介します。

建設専門官 湯浅芳和氏の後任で御船 勲氏です。3年前は松浦川出張所長でした。

専門調査員 宇佐美 湖氏、高橋 史哉氏です。

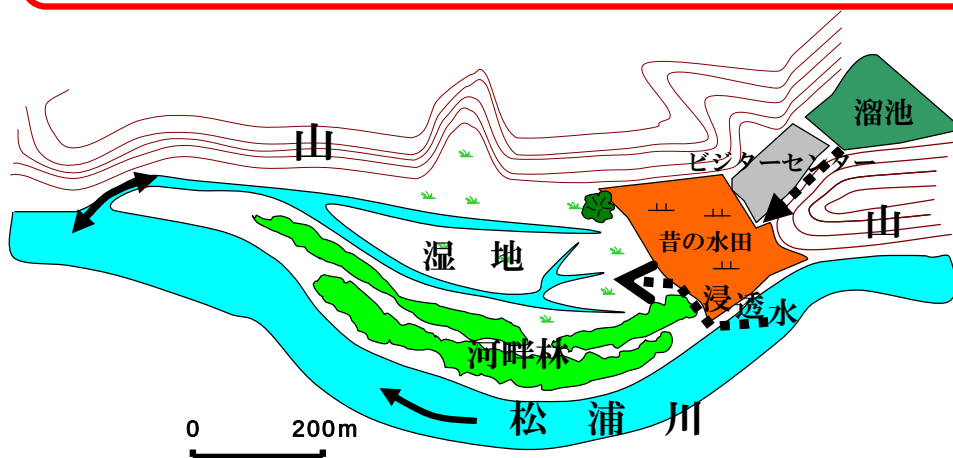
この3名が地域交流窓口として、地域の皆さんと交流を深め、よりよい計画を作り上げてまいります。よろしくお願いします。

『第5回検討会』開催！

4月13日に検討会を開催しました。

2回の代表者検討会を開催し、アザメの瀬自然再生事業の構想原案を提案しました。

原案は道路を山際へ付ける案と川側へ寄せる案の2案を提案しました。原案は下記のとおりです。



アザメの瀬 基本構想図 原案

原案に対しては、住民の方々からいくつかの意見を頂きましたので紹介します。

1. 魚取りに都合の良い仕掛けを考える
2. 湿田で重要なことは、流れがないこと・干し上がらないこと・浅いこと・陸化しないこと。
3. 水田は不整形な形が良いが管理を考えると長方形がよい。
4. 生物の資料館を考え、車道計画は慎重に！駐車場は十分に！

まだまだ意見はあり、すべての意見を繁栄できるとは思いませんが、今後も貴重な意見を踏まえ高い意識のもとで連携を深めた計画・実施を行っていきましょう。

【今後の調査】

これまで検討会やシンポジウムを行い、アザメの瀬基本構想原案が住民の方々の概ね了解のもと、出来上がりました。しかしながら、まだまだ改善の余地があり後生によりよい環境を残すためにもさらなる改良が必要です。そのためには正確な知識と緻密な調査が重要であり、調査を通して自然を知るチャンスでもあります。

調査の内容を簡単に説明してみましょう。

シードバンクって何だろう???

みんなで探そうシードバンク

シードバンク調査の目的

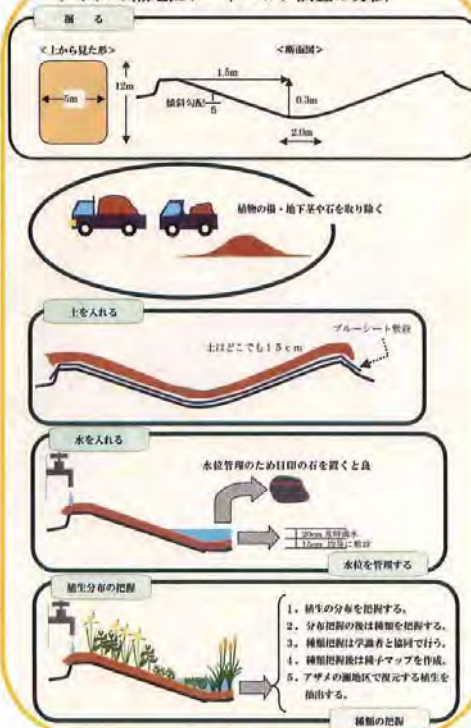
アザメの瀬地区自然再生事業では、植物・魚類相等の復元を行う予定にしていますが、植物については昔から松浦川流域内に依存していた種をこのシードバンク（種子の銀行）を使って復元したいと考えています。土の中には、多くの種子が含まれており、その種類は地上に存在する種子の約3～5倍程度といわれており土の中で次の発芽の機会をじっと待っています。

土の中に生きている種子の集団のこと。通常、土の中に生えているよりも、遙かに沢山の数の種子が眠っています。種子の種類によっては土壌中で何十年も生きているものがあり、現在では見られなくなった植物が眠っている可能性が大いにあります。その種子を探し出すための一つの手段としてシードバンク調査があります。

シードバンク調査の方法

1. 流域内で昔は湿地だったとか、川が流れていたが埋められたとか、そのような情報をたよりに土を収集する。
2. アザメの瀬自然再生事業箇所の一部を利用し実験ヤードを製作する。（希望としては小学校等と連携した実験も行いたい。環境学習の一環）
3. 実験ヤードに収集した土をまき出し発芽を待ちます。ばらまき方は、一定量の土壌に含まれる種子を調査するため、厚さ・幅等を均等にし、植物の生育に支障無くすることが重要です。
4. 定期的に観察会を行い、学識者（植物専攻）による種類の見分け方等の学習会を開く予定です。
5. この土を入れればどんな植物が生えてくるのか種子マップを作る。
6. 植物を選定しアザメの瀬地区自然再生事業箇所での復元を目指す。

アザメの瀬地区シードバンク調査の方法



編集後記

4月13日開催の検討会以降、動きが鈍くなり地元の方々には心配をおかけしております。アザメの瀬自然再生事業はこれまで以上にパワーアップし頑張っていく所存でございます。今後とも皆様との意志の疎通を図り、どこにも負けない自然再生を目指します。よろしくお願いします。編集員も燃えています。



アザメ新聞

平成14年7月4日発行 Vo1. 5

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。

Vo1. 4では第5回検討会の結果と今後の環境調査の考え方をお伝えしました。

さて、Vo1. 5では6月22日・23日で行われた応用生態工学研究会主催の自然再生事業シンポジウムの模様を紹介します。

第6回検討会は7月16日19時30分から相知町商工会館にて考えておりますので、多数の参加をよろしくお願いいたします。

自然再生事業シンポジウム開催！

2002年3月末に「新・生物多様性国家戦略」が閣議決定されました。国家戦略は、自然と共生するためのトータルプラン（総合計画）としての理念や長期的方針を示すものです。戦略の方向性として「保全の強化」「持続的促進」「自然再生」が掲げられています。ここで掲げられている自然再生は「科学的認識」「統合的アプローチ」「知識の共有、参加」「連携、協同」に基づいて実施される生物多様性保全に寄与する自然の修復や再生ということだそうです。この考えに日本国内、世界をみても一番当てはまる事例がアザメの瀬自然再生事業だということで、佐賀県唐津市文化体育館でシンポジウムが開催されました。

シンポジウムでは、実際に自然再生事業が進められている現場で、自然再生の理念や実際の進め方、そこでの応用生態工学の役割などを話されました。



会場には、自然再生事業に興味のあるたくさんの方々が来られ、活発な意見が飛び交いました。

このようなシンポジウムで取り上げられたアザメの瀬自然再生事業を担当している編集員一同、身の引き締まる思いでした。



アザメ新聞やパンフレットでPRしました。

左の写真は各個別のお話のあとに、会場を交えた討論会時の写真です。

各個人のお話の内容は、以下のとおりでした。

島谷幸宏（国土交通省武雄工事事務所長）

アザメの瀬での自然再生の意義

生物のすみか（ハビタット）について

氾濫原の再生（湿地的機能の再生）

外来種対策、維持管理体制、若年層の参加など
鷲谷いづみ（東京大学農学部教授）

絶滅危惧種について

生物多様性条約

～森林・ウェットランドの喪失を防ぐ目的～

新・生物多様性国家戦略

中村太士（北海道大学農学部教授）

洪水擾乱

自然復元の難しさ

芝山秀次郎（佐賀大学農学部教授）

台地の生態系

海の生態系

シンポジウム前日の現地見学

シンポジウム前日にアザメの瀬地区において現地見学会が行われました。当日は蒸し暑い中にも関わらず60名以上の佐里地区の方々に参加していただきありがとうございました。軽トラックの行列には東京の人達も、さぞビックリしたことでしょう。このように、全国に対しても地元の熱意を十分アピール出来たと思います。全国が注目していますので、今後も皆様と合意形成を図り、よりよいものを後世に残せるよう努力していきます。



事務所若手職員で朝9:00より魚取りを行いました。シンポジウムに来られる方々に松浦川に棲む魚達を見てもらおうと頑張りました。まだまだ下手な投網ですが、様々な魚が捕れていい成果ができました。

当日は、連絡の行き違いにより、地元の方々を、1時間近くも待たせしてしまい、ご迷惑をおかけしました。相知町長には、陰湿なムードを吹き飛ばすような演説をしていただきホント助かりました。



捕れたての魚達
アユ、オイカワ、ドンコ、
マダモリ、ガウカ、
テガヤ、ヨシノリ、
モロ、サワガ、

ハビタットマップ（魚の棲み家の地図）

捕まえた魚達を水槽に入れハビタットマップ（魚の棲み家の地図）を作成し観察しました。（右の写真）このように図面に明記すると、どのような場所にどんな魚がいるのか一目でわかり勉強になりました。もうじき夏休みシーズンなので、魚取りイベントなどを考えており、ぜひ子供達にも体験してもらいたいと思います。

捕獲した魚の中には、国内で問題となっている外来種（ブラックバスやブルーギル）もいました。この魚が増えてくると本来松浦川に棲んでいるはずの魚達の生活環境が悪化し減っていきます。昔の環境に戻すためにも皆で撲滅しましょう。釣ったら逃がさない！



松浦川をけがす魚

ブラックバス（外来種）



シードバンクは種の銀行！

V o 1. 4新聞でも紹介しましたが、現地でシードバンクを行いました。土は事業地内の土を使用しました。少しずつ芽が出ているようです。今後は、相知町内の土がとれる場所を地元の皆様に相談し、是非とも絶滅危惧種を復元したいと思います。

編集後記 7月中旬に第6回検討会を開催する予定です。今後は、学校を中心に訪問し、子供達への理解とより多くの方々にアザメの瀬自然再生事業の必要性を広めていく予定です。

事務所ホームページでも現在アザメ情報を掲載しています。（<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>）



アザメ新聞

平成14年8月27日発行 Vol. 6

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業であって、どなたでも自由に検討会に参加できます。
Vol.5では自然再生シンポジウムの模様と現地見学会での結果をお伝えしました。
さて、今回のVol.6では7月16日の第6回検討会、8月20日の第7回検討会と8月1日に行った魚類調査の状況を紹介します。

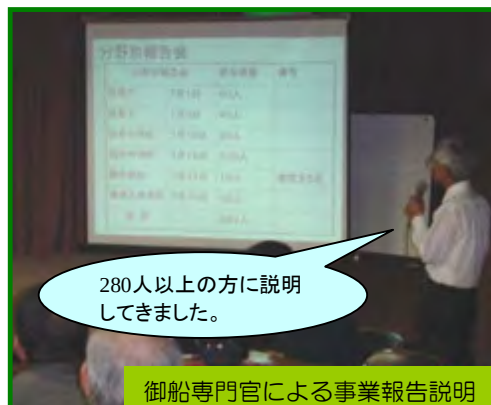
第6回検討会開催！

第6回検討会では武雄工事事務所今村技官が説明者となり、以下の内容について議論を行いました。

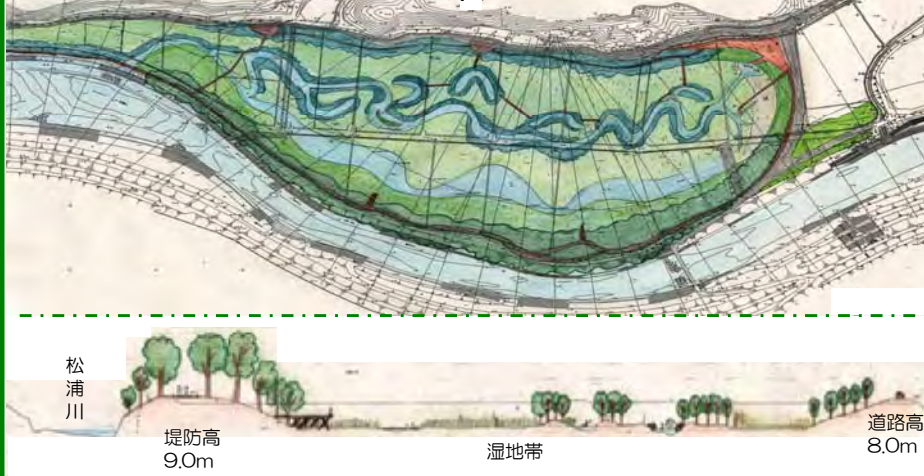
- 各関係機関（学校、婦人会等）への事業説明報告
- 今後の調査内容（水位計、環境調査）の説明
- アザメの瀬除草について
- シードバンク調査
- 事務所作成の原案（平面図・横断図）説明

議論の結果ならびに意見

- 近隣市町の小中高等学校等にアザメの瀬・シードバンク調査の説明に行ってきました。
 - 除草については1回or2回刈るかで検討していく。
 - アザメの松浦川では釣り客に魚（主にコイ）を乱獲されている。内水面漁協組合を設立して保護を図っていくことはできないだろうか？
 - 地層中に岩盤がどの程度の深さに存在するかを調査するため、地層調査を行うことを報告。（みなさんの話によると川底に岩があるため、掘っていくと岩が出てくるのでは？）
- 今回は特にシードバンク調査について熱心に語った結果、みなさんに意義、内容を十分に伝えることができた模様です。（説明者の成長がうかがえる？）



アザメの瀬計画図〔上：平面図、下：横断図〕（事務所案）



その他意見としては、前回の検討会から2ヶ月以上経過していたことから「何しとったんか！」といったおしかり？の声もあるなど、本事業に対するみなさんの熱意と関心の高さにびっくりしました。（弁明：何もしてなかったわけでは決してありません...）

今後もみなさんと一緒になって一生懸命頑張っていきますので、今まで同様よろしくお願いします！！

アサメの瀬に電気ショッカー登場！～魚介類を捕獲～

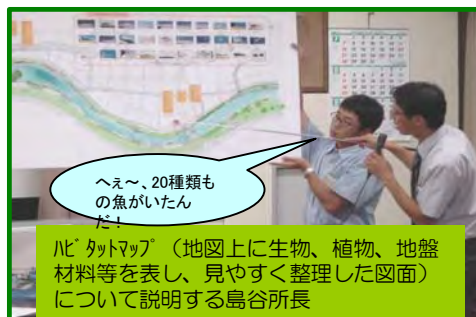
8月1日、アサメの瀬沿いの松浦川において、電気ショッカーを用いた魚類生息環境調査を行いました。電気ショッカーとは水中に電流を走らせ、魚が電気ショックにより一時意識を失ったところをタモ網にて捕獲するもので、定量的に捕獲できる優れた調査手法です。欧米ではすでに使われていますが、日本では県によって使用できないところもあり、我が佐賀県では許可されてません。今回は許可を頂き、佐賀県環境化学検査協会の方々と共に実施し、講師に岐阜県から土木研究所自然共生センター長の菅場氏、研究員の傳田氏を招き、手ほどきを受けながら実施しました。

結果、フナ・フナギ・アユ・イカワ・カサガエなどたくさんの魚介類を短時間で効率よく捕まえられ、電気ショッカーの実力をあらためて証明しました。



調査中偶然、検討会に参加している松本さんの乱入？もありましたが、感電することなく無事に調査を終えられ、非常に有意義な現地調査となりました。

除草方法について提案を行う松本さん



第7回検討会開催！

今回は、前回提示したアサメの瀬計画平面図・横断図に対して率直な意見交換を行いました。出た意見は、
○道路高はT.P.8.0mとなっているが、低いのでは？
○現在、雑草の繁茂状況が著しいため、早急に対応を！
○田んぼは広すぎやしないか？
○田んぼで作る作物は全部稲じゃなくて、ソノとかも栽培していったらいいのでは？
○河畔林帯に樹木を植える際はあまり密に樹木を植えていくと除草がしづらくなるのでは？
○前回、漁業権の話があがっていたが、その後の進捗は？

今後よりよいアサメの瀬とすべく上記の内容を中心に検討を進めていきたいと考えています。検討会終了後には幅広く意見を聞くためアンケートを実施しました。質問内容は「道路の高さ」「河畔林整備」などについてです。次回のアサメ新聞で結果を報告したいと思います。

また、今後行う地層調査と今まで行ってきた魚介類・植物類の調査結果を報告しました。地層調査では面的に地盤を抜き取る手法を採用したことで、過去の洪水履歴やどの位置に岩や地下水の層があるかを判断できます。また地盤を掘り下げる際のデータや抜き取った地層を用いてソドバツ調査に活用していきます。魚介類と植物類の調査結果では、多種多様な生物を確認でき、あらためて当地区が自然豊かな土地であることを証明してくれています。



編集後記：「ソドバツ」という言葉が標準語になりつつある相知町。他にこの言葉が浸透している市町村があるのでしょうか？この「ソドバツ」をとおして検討会に参加してくれている方々が環境面に対し強く関心を持っていただいていることがこのうえなくうれしく思う編集員一同です。

事務所・M・Zにてアサメ情報を掲載しています。 (<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>)
国土交通省武雄工事事務所調査課 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193



アザメ新聞

平成14年9月3日発行

Vol. 7

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol. 6では第6回検討会での模様と現地魚類調査、ハビタットマップについてをお伝えしました。
さて、Vol. 7では8月22日の現地調査、8月26日の第8回検討会の模様をお伝えします。

地層調査実施！

8月22日にアザメの瀬において地層調査を行いました。この地層調査は、**過去の土地利用の形態や地層に残された洪水の履歴など、堆積環境の変化を明らかにすること**を目的としています。通常のボーリング調査ではコアが小さく面的に確認するのが容易ではありませんでした。今回実施の調査では面的に表面を捉え確認できることに最大の利点があります。その他、標本としても保存が可能です。ビジターセンター建設後の重要な展示資料になること間違いなし！



地層調査実施状況

2002. 8. 22



抜き取った試料に特殊な樹脂をたっぷり塗ります。



樹脂に張り付いた試料を慎重にはぎ取ります。これを標本として保管します。

※今後、詳しい調査結果を皆さんに紹介します。

シードバンク調査のその後！



8月28日撮影



溜池からも貴重な植生が見つかるみたいです。

1～2mまでの土をまきだした所に水田によく見られる植生が約9種類出てきました。現在のところ、コナギ、タマガヤツリ、チョウジタデ、アゼナ、アメリカアゼナ、イボクサ、ヒデリコ、ミズマツバ、アメリカタカサブロウなどがみついています。今後も調査を続け、色々な植生を観察したいと思います。

第8回検討会開催！

8月26日の第8回検討会では講演会をメインに開催しました。

講演内容

◇環境にやさしいトイレについて

長崎大学環境科学部 石崎勝義教授

◇ビジターセンターについて

九州地方整備局河川工事課課長補佐 湯浅芳和氏

◇霞ヶ浦における湖内浄化と湿地浄化

土木研究所 主任研究員 中村圭吾氏

環境にやさしいトイレについて

富士山でも活用されています！



環境に配慮したトイレを石崎先生に紹介してもらいました。このトイレは、便槽に**おがくず**を入れることにより、し尿が染み込み乾燥し有機肥料に使えます。再生事業を行う地にはもってこいのトイレだと思います。会場からも多数の質問が飛び交い有意義でした。

霞ヶ浦の湖内浄化と湿地浄化

湿地で水がきれいに！



霞ヶ浦における湖内浄化と湿地浄化、それから自然再生事業の事例を紹介してもらいました。湖岸植生帯の復元にシードバンクが役立っており、シードバンクのすばらしさを改めて認識しました。

ビジターセンターについて

“みんなで造る”が基本です！



湯浅氏個人的な意見として、下記の点について提案がありました。今後、議論を深め良いものを造り上げていきましょう！！

目標 “**みんなで造る環境配慮型学習施設！**”

建物の構造	佐里地区の自然にマッチした民家の造り
建物の材料	石材、木材、竹材、土、杉皮等の昔の民家に使用された材料可能であれば昔の建物の再利用。
材料の調達方法	出来る限り地元産出の材料を使用。
設備関係	電気設備 太陽光発電、風車による発電等を最大限利用？
	照明器具は、壁付きランプ等も考慮？
	給水設備 地下水を滅菌処理して利用？
	暖房設備 近隣地区で生産した薪、炭を利用した暖炉を設
	農房用燃料 バイオガスの有効利用？
	汚水処理 汚水排水を極力流さない方法(蒸発さん方式等)？

このように、アザメの瀬では個人個人の意見を尊重し、事業発展へと結びつけていく進め方を基本としています。皆さんも自分の意見をどんどん出しましょう！

第6回検討会のアンケート結果(速報)

Q1:現在の地盤を掘り下げて湿地帯を復元する計画に対して

Q2:河畔林整備を行う計画に対して

Q3:堤防の高さ9.0mの計画に対して

Q4:道路の高さ8.0mの計画に対して

Q5:洪水時、河川水の流入を考えている施設に対して

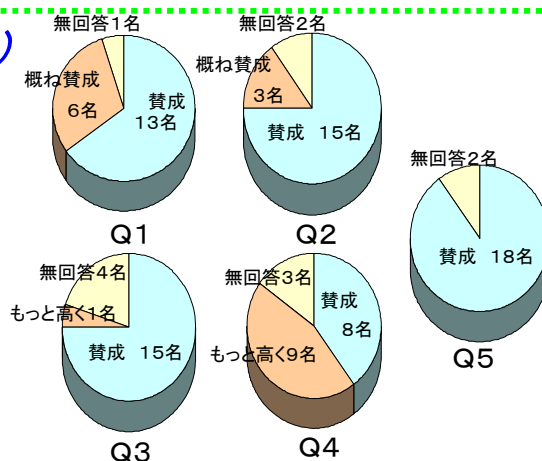
シードバンク調査での新たな試み！

8月22日からの地層調査で採取した土を使用しシードバンクを実施しました。この調査でアザメの瀬地区の土層のどの辺にどんな植生が眠っているか、種はだいたいどれくらい生きれるか、色々なことが明らかになると思われます。現在、事務所職員でプランターを用い調査を開始しています。直営での作業ですのうまいくかは分かりませんがしっかりと頑張ります。(随時結果を紹介していきます。)

土は層別に土袋で管理し、1つ1つ手作業で行っています。



事務所職員でそれぞれ分担当を決めて管理しています。



編集後記: 佐賀県絶滅危惧種である植物の「タヌキモとサンショウモ」を松本等さんが発見しました。相知町、特に佐里地区にはまだまだ自然が残っており絶滅しそうな種が存在する可能性があります。あやしい植物を見つけたらいつでも連絡して下さい。(あやしい土をお願いします！)

事務所ホームページ
(<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>)

武雄工事事務所調査課
tel0954-23-7933 fax0954-23-5193



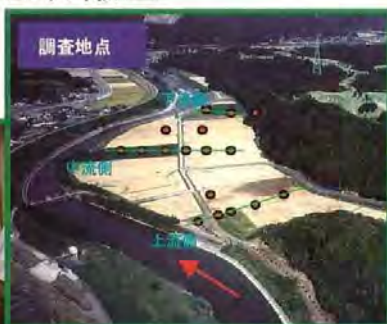
アザメ新聞

平成14年10月7日発行

Vol. 8

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol. 7では地層調査、第8回検討会の模様、アンケート結果など多数の内容を紹介しました。
さて、Vol. 8では9月11日第9回検討会、9月27日第10回検討会の模様をお伝えします。

第9回検討会開催！ ～地層調査の結果報告～



地層調査を17箇所で行い、上流、中流、下流測線毎の地層状況を報告しました。調査を行った結果、地表から8mまでは岩が出てこないこと、6mぐらいから河床材料(川の中の砂や礫)が出てくるのが分かりました。

今後の地層調査の展開については、
①地層調査で採取した土を
シードバンクに使う
②土の中に含まれる、炭化物を調査し、地層深さ毎の年代を調べる
結果がでましたら、ご報告します。
ご期待ください。

～シードバンクの新たな試み～

9月19日に武雄工事事務所屋上にて、アザメの瀬で実施した地層調査の試料を使い行いました(右図参照)。この調査結果をもとに、アザメの瀬を掘り下げた場合に、どの辺の地層まで種子を含んでいるのかを把握し、有効な掘削残土の利用(再生する種の選定)に役立てます。地層調査17箇所のうち、8箇所を選定し調査しています。8箇所分でプランターが120個にもなりましたが、検討会メンバーの参加もあり楽しく作業することが出来ました。

東京大学の西廣助手いわく、「このように定量的にシードバンク調査を実施するのは全国ではじめてのこと」だそうです。

新たなシードバンク調査の試み 資料2



地元の方が作業したプランター。GS14



20日目の状況(かなりの芽生えが見られる)



黙々と作業を続ける地元の方々

シードバンク調査の際には、西廣氏・後藤氏に来ていただき、作業手順などのアドバイスを受けました。
この試みを通じて多くの人にシードバンクを知ってもらえたらいいなと思います。

第10回検討会開催！

9月27日(金)にC・ゲルディー氏を招き、現地見学会及び講演会・討論会を実施しました。C・ゲルディー氏は近自然工法をスイスではじめ、その道の第一人者として世界をリードしている技術者です。その先生にアザメの瀬地区と駒鳴地区を見ていただきました。当日はあいにくの雨でしたが、沢山の参加があり有意義な一日となりました。

現場にて・・・

現場では、島谷所長をはじめ若手職員が一丸となり、アザメの瀬の必要性について熱く説明をしました。ゲルディー氏から貴重な意見や質問を多数頂きました。

現場に来て数分足らずで現状を把握し、的確なアドバイスをされるゲルディー氏には驚きました。「川に自由を与える、失敗を恐れない」など非常に勉強になることばかりでした。



アザメの瀬を通じて熱く語る二人



クリスティアン・ゲルディー氏



シードバンクも好評でした

講演会&討論会

現場見学のあと、相知町福祉センターでゲルディー氏による「近自然河川工法」の講演会が開かれました。120名程度の参加があり、改めてアザメの瀬への注目度の高さに驚きました。

講演内容は主にスイスにおける近自然河川工法の紹介でした。通訳を通しての講演だったので、ゲルディー氏の河川に対する熱さが伝わりにくかったと思いますが、誰よりも河川を愛している方だなと思いました。

その後、アザメの瀬についての討論会となり、会場からも質問・疑問が飛び交いました。なかでも議論の中心は、田圃を掘り下げた場合に堤防を残すか、残さないかでした。ゲルディー氏によれば堤防は残さずに河川を拡げてやるのも一つの手ではないかということでした。まだまだ沢山の意見をもらいましたので、今後のアザメの瀬をよりよいものにするために生かしていきたいと思います。



講演会の模様

今回、外国の川づくりを学び、アザメの瀬で参考となることがたくさんあり有意義でした。町の人々が非常に熱心に聞き入ってくれていたのがうれしかったです。今やアザメの瀬も世界が注目するほどになりました。今後もみなさんとアザメの瀬を通じて、自然のすばらしさや大切さを勉強していきたいと思います。よろしくお願いします。

事務所ホームページ

(<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>)

武雄工事事務所調査課

tel0954-23-7933 fax0954-23-5193



アザメ新聞

平成14年11月26日発行

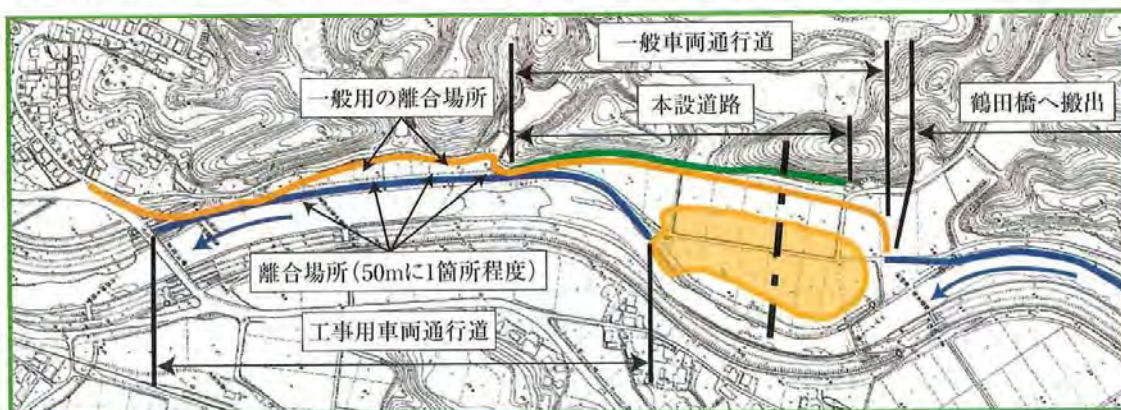
vol. 9.

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業でどなたでも検討会に参加できます。
Vol.8では第9回検討会や地元の方と実施したシードバンクの試み、第10回検討会の模様をお伝えしました。
さて、Vol.9では第11回、第12回検討会での模様をお伝えします。

第11回、第12回検討会開催！

動き出したアザメの瀬

これまで検討会で様々な議論を行ってきましたが、掘削土砂の有効利用を考えてアザメの瀬を一部掘り下げることになり検討会で議論しました。これまでの議論でこの土地を河川の高さと変わらないところまで掘削し、河川の水を引き込み湿地的環境を再生することが決まっています。湿地的環境にする理由は生物(魚)の繁殖の拠点とし松浦川流域全体の湿地的機能の再生にあり、掘削後もモニタリング(観察、調査など)を行いよりよい環境再生に努めます。検討会で掘削に際して「何故掘り下げるの?」という質問が出ました。掘削に対しては何度も、何故掘り下げるのかという議論をしましたが、アザメの瀬検討会では、疑問が生じた時は一度議論したことも何度も繰り返し話し合うこととしています。また、工事の際、うまくいかなかったところは何度も繰り返しやり直す(順応的管理)ことにしています。これはとても大切なことであり、何度も話し合い、工事したところでもためらわずやり直すことで、よりよいものが後世に残ると思います。一緒にアザメの瀬自然再生事業を盛り上げていきましょう。



アザメの瀬にビジターセンターを建てる?

第8回検討会時にも紹介しましたが、ビジターセンターを造る計画があります。計画のモットーは「みんなで造る環境配慮型学習施設」(第7号アザメ新聞参照)です。今回、佐賀県杵島郡白石町に古民家があり、その施設をビジターセンターにどうかということで紹介しました。議論の中には、「**ビジターセンターに何を展示するかわからないのに建てるのはまだ早い**」や「**見学者が来ており仮のものを建てて様子を見てみたら**」という意見がでました。実際、アザメの瀬を見学に来る人が増えてきており、雨宿り出来る仮設のプレハブ程度は欲しいということで簡単な説明パネルと合わせて早めに設置したいと考えています。

♪あなたのイメージは♪



一般の方から提供のあった白石町の古民家

～ シードバンクの新たな試み ～ 同定作業実施

第8号新聞で紹介しましたが、9月19日からシードバンクの新たな試みとして実験的に調査を行い観察を続けていました。約2ヶ月の間にたくさんの芽が出ており、11月12日に同定作業(植物の種類を特定する作業)を行いました。



作業手順

ピンセットを使って成長した植物を抜き取る。
抜き取った種類を同定しメモに残す。
(成長した植物がタネを落とすから)



種の判別が難しいものについては右写真のようにマーキングし成長を待ちます。



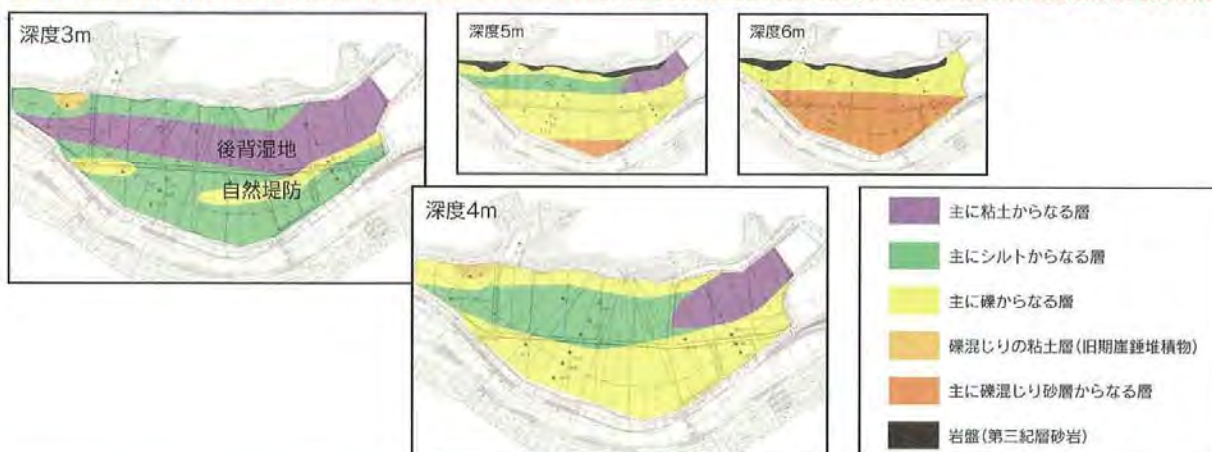
作業を通して、僕たちが思っていた以上に種類の豊富さに驚きました。根気強く1つ1つのプランターを全てチェックし、パッと見ただけでは同じように見える植物も、近づいてじっくり観察すると微妙に違い、日頃から気にしていなかった自分が恥ずかしくなりました。この調査を経て植物への愛着が以前より断然と湧いてきました。こんなに沢山の種類の植物達が土の中で眠っていた現実と植物の生命力の強さを改めて実感しました。(車軸藻(シャジクモ)という貴重な種類ができました。)これからも人と自然が共生できる第1歩としてのアザメの瀬自然再生を共に進めていきましょう。

～ 出立式(出発式) ～

自然再生がいよいよ動き出すということで出立式(仮称)を行ってはどうかと提案しました。出立式という名称にしたのには理由があります。湿地の形を人間が作ることはできませんが、動物・植物が自然の力で環境を整えていく土台(出発点)を造ったにすぎません。自然の力で環境再生がスタートするその出発点との意味を込めて出立式という名前にしました。また、アザメの瀬は松浦川流域全体の自然再生に対する出発点という意味も込めているからです。アザメの瀬を拠点として松浦川流域が今以上に自然にあふれた、豊かな場所となればという願いも込めています。

～ 地層調査の結果(速報) ～

7月、8月に実施した地層調査の結果が判りましたので速報ではありますが紹介します。下図は深さごとに地盤面を図化したものです。現在、地層年代を推定する調査を行っていますので、結果が出たら紹介します。



編集後記：いよいよアザメの瀬が動き出しました。今後も気を抜かず踏ん張っていきます。頑張りましょう。
事務所ホームページ (<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>)
武雄工事事務所調査課 tel 0954-23-7933 fax 0954-23-5193



アザメ新聞

平成15年1月28日発行

vol.10

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
 この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
 Vol.9では第11回検討会、第12回検討会やビジターセンター、シードバンク調査の結果、地層調査結果、
 出立式について掲載しました。
 さて、Vol.10では第13回、第14回検討会での模様をお伝えします。

第13回検討会開催! H14.12.2

“アザメの会”誕生!

H13.11.6の第1回検討会から数えること、13回目...。
 このたび、地元住民の方々が自発的に考えアザメの瀬をバックアップする組織としてアザメの会が発足することが発表されました。一年間、議論を重ねてきた結果がアザメの会として形になり、住民参加型事業として理想的な形になってきたと感激しています。アザメの会の主な活動内容は未定ですが、住民の方々がアザメの会が必要だと思われた気持ちが一番大事だと思います。今後はアザメの会を通じて子ども達との交流など、自然再生の輪を広げたいと思います。

アザメの会 会長
山口 直行さん



～ 地層調査最終結果 ～

8月から実施してきた地層調査の解析結果ができました。

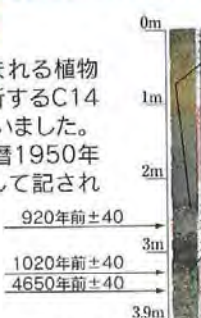
調査箇所は17箇所地盤にスライス状の鉄板を差し込んで試料を採取する調査です。(詳しくは第8号新聞に掲載)



地層調査の結果から約1000年前には、現在より約5m低い位置に地表があったことが解りました。つまり、湿地を再生するために必要な掘削を行うと1000年前の地表が出てくるということです。

GS14地点での年代調査

年代分析は、地層中に含まれる植物などが炭化したものを分析するC14年代測定法という手法で行いました。※C14年代測定法は、西暦1950年を基準に何年前なのかとして記されます。



地層調査結果標本



現在の地盤から1.0～1.5m下は耕作土として人の手により入れられたもので、1.5mから下は主に川の氾濫や土石流によって堆積した土だと解りました。

この調査で得た情報は、ビジターセンター完成後に展示しようと思います。アザメの瀬が昔はどんな状態だったのかを知る重要な資料となるでしょう。土が語る昔のアザメの瀬として...

土石流堆積物：灰色の粘土の中に礫が確認でき、礫がまばらに混入しているのが特徴です。地層境界が変形したことや下位の地層を削り込んでいることから沼地と考えられる下位の柔らかい地層に土石流が一気に流れ込んだことを示します。



一定方向への流れ



双方向への流れ



カレントリップル：一定方向の流れによってできた構造で、川が氾濫し背後の土地に水が流れ込んだと推定されます。
 ウェーブリップル：波によってできた構造で、沼地の堆積物にできます。この地層には植物の破片が多く含まれるので植生が繁茂していたことを示します。

シードバンク調査箇所

アザメの瀬の掘削も始まり、いよいよ湿地的な環境が再生される日も近くなりました。湿地的環境を再生する方法としてシードバンクを利用しようと考えています。現地の土は確保しているのですが、アザメの瀬以外（流域内）での土でも実施したいと考えています。現在のところ3箇所の土を利用しようと思っています。



旧河川や旧溜池・旧沼などを検討会に参加された方に聞き取りし、選定しました。このように住民の方々の意見でアザメの瀬は成長していきますので今後もどんどん発言して下さい。（みんなのアザメです）

第14回検討会開催！H15.1.16

町道付替について

アザメの瀬の真ん中を通る町道が掘削により通行不能になるため、山側へ移設することを今までの検討会で話してきました。これまで道路の高さについては具体的な話をしていませんでしたので、今回議論を行いました。



左図のように、町道を山側へ付替します。これまでの検討会では、現在の道路高より50cm程度はあげた方がよいとの意見が出されていました。

色々と検討を重ねた結果、①～②の範囲を嵩上げしても①より下流は道路高が低く、洪水時には和田山橋から①の間で通行不能になってしまうので、現状のままの高さでの付け替えを行うことを提案しました。また、道路の高さを上げれば上げるほど湿地帯の面積は少なくなることも伝えました。日頃、道路を使用される住民の方々には、少しでも高くして欲しいとの気持ちが強いと思いますが、湿地帯の面積が減ることを伝えると、「そんなら、今のままの道路の高さでよか。湿地は出来るだけ広か方がよかもね。」とみなさん賛成していただきました。1年間の検討会を通して自然再生に対する住民の方々の気持ちが前にも増して、強くなったことにとっても感激しました。

（編集員より一言）“続けてきて良かったなあ。”

案内看板(案)紹介



左絵を案として紹介しました。

すでにアザメの瀬は有名になっているらしく、一目見ようと、たくさんの方が訪れているとの情報が入っています。看板の設置箇所については、現在未定ですが適地を早急に選定して設置しようと考えています。

掲示する内容は①アザメの瀬の将来図、②アザメ新聞③佐里地区の情報④河川の情報⑤季節に応じたアザメの瀬付近の情報などを考えています。掲示は自由にしようと思うので、みなさんでどんどん貼りましょう。

編集後記：新年あけましておめでとうございます。今年も、アザメの瀬は元気に張り切っていきます。皆さんの熱い気持ちですばらしい場所にしていきましょう。今後も気を抜かず頑張っていきますのでお互いに頑張りましょう。

事務所ホームページ (<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>)

武雄工事事務所調査課 tel 0954-23-7933 fax 0954-23-5193



アザメ新聞

平成15年4月18日発行 Vol. 11

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

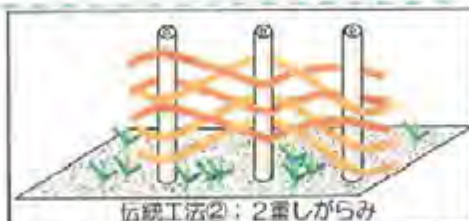
Vol. 10では第13回、第14回検討会での模様をお伝えしました。

Vol. 11では第15回検討会、第16回検討会、イタ嵐等のイベント、第17回検討会をお伝えします。

第15回検討会開催 H15.2.4

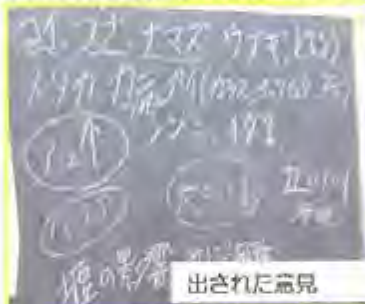
今回の検討会ではアザメの瀬工事の現状報告、今後の事業計画と、アザメの瀬の昔と現在についての聞き取りを行いました。

そのなかでアザメの瀬地区より約5km上流の駒鳴捷水路が完成したことで水位上昇のスピードが速くなったように感じるといった意見や、今後松浦川を拡幅する計画がありアザメの瀬橋の架け替えによって橋の長さが約1.5倍になると報告されました。橋梁の拡幅等については今後議論していくこととなります。



伝統工法②：2重しがらみ

通えに魚介類	アユ、ブラックバス、ブルーギル
まわらない	タナゴ、イダ
通った魚介類	コイ、フナ、ナマス、ウナギ、メダカ、ドジョウ、ハヤ、 鮒（カラスガイ、シロミ、ホウチョウガイ、タチガイ）、 ツグ



出された意見

聞き取り調査では、昔はアザメの瀬で洪水の度に運ばれてくる土砂を防ぐため、伝統工法である①木で編んだ「さな」や、②杭の間を木のツタで結んだ「2重しがらみ」などを地元の仕役(区役)として作ったことなどや、昔と比べ魚種によっては減少したり増加したといった話を聞くことができました。今後、貴重な意見を伺うため、アザメの瀬に関してアンケート調査を行っていきますので、ドンドンご意見お聞かせ下さい。

第16回検討会開催 H15.2.13

「アザメの瀬は日本国民全部の財産になる・・・」

「環境はその川の人にしかできない、だから行政ではできない、

地域の人がやるしかない」

「行政ができるのは土台まででその上部構造は地元の活動の中でできるものだ」

第16回検討会では前国土交通省河川局長の竹村公太郎氏を迎え、「川と人間」と題して講演を行っていただきました。日本の川は外国の川に比べ水がすぐ流れてしまうことや、近年の災害は元々人間が住めなかった場所にも人が住むようになって起きるようになったこと、文部省の調査結果から子供達に「自然体験」を行わせることが、社会規範・秩序を守る精神を形成させる力をもちことがわかったなどさまざまなことを講演していただきました。



アザメの瀬を見学する竹村氏と説明する大草相知町長



講演の状況



質問にも思わず熱がはいる！

今後も学識経験者等を迎えて、このような講演を行っていただこうと考えています。こういった貴重な機会にぜひ参加して、幅広い知識を吸収し視野を拡げて、よりよいアザメの瀬を築いていけるようがんばっていきましょう！一緒に頑張りましょう！

アザメの会が動き出しました ～活動開始～



15.2.10現地説明（佐里小学校）



15.3.9イダ嵐見学の様子



15.3.9イダ嵐参加者への事業説明



15.3.9イダ嵐見学会開催



15.3.14佐賀水会議でのブース展示

14年12月に立ち上がった“アザメの会”ですが、その後各種イベントを実施する一方、3月14日に佐賀市で行われた「佐賀水会議」ではポスターセッションを行い、アザメの瀬を説明するなど、積極的にアザメの瀬のすばらしさ、意義等を幅広い方々に説明しています。

“アザメの会”の活動を通してアザメのすばらしさが多くの方々に広まっていき、アザメの瀬を見に来る方や検討会に参加する方が増えるものと予想できます。これから夏にかけて、子供達と一緒に魚釣りや植物調査といったイベントの企画が考えられます。今後の“アザメの会”の活動に注目です。

第17回検討会開催！ H15.3.27

公募研究者が決まりました！！

公募していましたアザメの瀬での研究は以下のようにになりました。遠くは東京、大阪、和歌山から研究のためやってくることとなります。今後アザメの瀬に調査に来られることとなりますが、その際は協力をお願いすることになるかもしれませんが。その際はよろしくお願いします。

研究者	所属	研究課題
松井 隆一	日本大学 理工学部 海洋建築工学科	CVMによるアザメの瀬の環境価値評価に関する研究
山口 裕文	大阪府立大学 農学生命科学研究科	アザメの瀬自然再生過程で復元する植物種の自然適性に関する生態・遺伝学的評価研究
西原 淳	東京大学大学院 農学生命科学研究科	アザメの瀬における植生復元への土壌シードバンク利用可能性の評価
望月 俊宏	九州大学大学院 農学研究院	アザメの瀬再生過程における土壌養分とバイオマスの評価
増田 泰久	九州大学大学院 農学研究院動物資源科学部門 家畜飼料生産利用学分野	イネ科草本群落の成立と哺乳動物の動物種にカヤネズミの侵入・定着
中島 賢司	和歌山大学 システム工学部	自然再生事業による生物相復元効果の検証開発

アンケート調査を実施します！！

今回、独立行政法人土木研究所自然共生研究センターと協力して、『アザメの瀬 自然再生事業』に関するアンケート調査を行うこととなりました。アンケート内容は、「自然環境に興味がある」「昔と比べて川にいる生物が変わった」「自然再生事業に関する意見」等の質問をしており、全部で13ページに及びますが、回答は全て選択方式であるため、手間はかからないかと思います。

今後、事業を進めていく上で貴重な資料となりますので、御協力をお願いいたします。

今回、泊課長、中山係長、今村・井上技官が転勤することとなりました。今後新体制となりますが彼らの志を引継いで、頑張りますのでよろしくお願いします。



別れの挨拶を行う転勤者

「環境再生」一次掘削が終わり、皆さんにおかれても事業のイメージが以前にも増してつかめつつあると思われます。今後さらに事業をすすめていくなかで、事業地内に生物が生息したり、植物が芽生えてきたり新たな発見・変化を目にすることが出来ると思います。今後一層アザメの瀬から目が離せませんよ！！

国土交通省武雄河川事務所 <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>
国土交通省武雄河川事務所調査課 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193



アザメ新聞

平成15年6月25日発行 Vol. 12

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

Vol. 11では第15、16、17回検討会とアザメの会の活動状況をお伝えしました。

Vol. 12では第1回アザメの瀬研究会、第18回、第19回検討会をお伝えします。

第1回アザメの瀬研究会開催

H15.4.21

(掲載順不同)

アザメ新聞vol.11で紹介しましたが、**自然再生を進めていくなかで現状がどのように変化して、周囲にどのような影響を与えていくのかを科学的に評価**するため、公募により選ばれた6団体の研究者によって調査が開始されることとなりました

(右写真参照 見かけた際は、ご協力を)。そこで調査を始めるにあたって、合同で現地調査を実施し調査内容を共有し、意見交換を行った上で調査を開始することが望ましいことから、「**第1回アザメの瀬研究会**」と題して開催しました。

当日は午前中に松浦大堰などを視察しながら、午後からアザメの瀬地区の現地調査を行いました。この日アザメを初めて見た研究者からは「**写真で見るとすごい、おもしろそう、研究しがいがある**」といった声もあり、今後調査・研究を行っていくフィールドとして存分に活用してくれるものと思います。現地調査はアザメの瀬橋、ため池、松浦川魚介類調査と順調に進み、最後に佐里下公民館に場所を移して、各研究者の研究テーマ(アザメ新聞Vol.11参照)と今後のアザメの瀬の整備について意見交換を行いました。



大阪府立大学 山口教授



九州大学 望月助手



九州大学 増田教授



日本大学 桜井教授



和歌山大学 中島助教授



東京大学 西廣助手



①



③



②



④

各研究テーマは正直難しいと感じるものが多いですが、皆さんと共に理解して、吸収して、知識を増やしていきたいと思っています。研究内容については次号のアザメ新聞にて進捗状況を含めお知らせしたいと思います。

- ①写真:掘り下げたアザメの瀬を探索
- ②写真:ため池植生調査(怪しい植物を探す?)
- ③写真:アザメの瀬沿い松浦川で魚介類調査
- ④写真:佐里下公民館での、アザメの瀬整備計画について意見交換

第18回検討会開催！（当面の整備をどうする？） H15.5.8

今回は「①仮設ビクターセンター内の展示」「②案内板設置」「③アザメの瀬の整備」について議論しました。



魚が棲めるアザメの瀬を！



魚が棲めるように、ここに深みを

①については、パンフレット・地層調査標本・アザメ整備計画パース等を設置して欲しいといった内容で、見学者に対して簡単な説明ができれば資料が必要であるという意見が寄せられた。材を用い作成した縦約1m×横約1.2mの立て看板内に何を掲示し、設置場所をどこにするのかを議論しました。特に最近見学者が多いとの意見からきちんと自然再生事業の概要が説明できるものが必要で、設置位置は見学者の目に入りやすくアザメ入り口部でもある久我さん宅前の敷地に建てることとなりました。

③については、縮尺1/250のアザメの瀬粘土模型を用いて議論した結果、平面図より整備イメージがつかみやすいため議論が活発でした。内容としては「瀬と淵がないと魚が棲まん」「水が枯れたら魚が死んでしまう」といった内容で、特に魚介類に対して何とかしてあげたいといった思いが強く、「ゴルフ場からの排水は、除草剤が流れ込んで来るからアザメの瀬には入れるな！」といった意見が大半を占めました。今回の意見を踏まえ、工事に十分反映させながら、アザメの瀬を作り上げていきます。何か気づいた点・不明な点があればその都度意見を聞かせてください。皆さんの意見を十分組み込んでいきたいと考えていますので・・・

第19回検討会開催！ H15.6.5

案内板設置＆工事の実施状況報告

案内看板を、5月22日設置しました。翌日、中身を貼り付けに行ったところ、もうすでに事業概要とイメージパースが貼り付けてありました。検討会の中でこの話をしたところ、「何もないと寂しいけん、適当に貼り付けとったばい」というとても頼もしい意見でした（自主的に行ってくれた事が、すごくうれしくて感激しました）。今後も自由に貼り付け可能とするため、施錠していませんのでどんどん張って新鮮な情報に更新しましょう。今は工事の実施状況も掲載しています。

また工事実施状況も説明しました。着手前に描いた図面を現地にて掘り下げるラインを白線で描いてから掘り下げていること、T.P.2.0mまで掘り下げると約8㍓ほどの湧水（河川水からの流入？）があったことなど実際掘ってみて分かった新たな知見を説明しました。今後も現地をよく観察し、自然の力でどのように変わっていくかをこの目で確かめながらアザメの瀬を整備できたらと思います。皆さんも注意深く見てみてはどうでしょうか。きっとおもしろいと思いますよ。



15. 5. 22の看板設置状況



自主的に掲載 すばらしい



5/30 図面を現地で確認



6/5 低水路が形成されていく



6/5 掘り進むアザメの瀬

編集後記 第19回検討会の中で「アザメの瀬の工事内容が分からなくて何をしているのかちゃんと報告して欲しい」といった意見を頂きました。十分情報提供を行ってきたつもりですが、6月の工事の情報が実際行き届いていなかったところがありました。今後これまでに情報の共有と周知を行って迷惑をかけないよう取り組んでいきたいと事務局も考えていますのでよろしくお願いいたします。

国土交通省武雄河川事務所 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成15年8月1日発行 Vo1. 13

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vo1. 12では第1回アザメの瀬研究会、第18回、第19回検討会をお伝えしました。
Vo1. 13ではアザメの瀬出立式、第20回検討会、アザメの瀬研究の内容をお伝えします。

アザメの瀬出立式(生物採取付き)

H15.6.29

6月18日、松浦川流域に雨が激しく降りました。その日アザメの瀬はその雨のおかげで川とアザメを隔てていた大型土嚢を乗り越え河川水を入れてしまうハプニング!?。29日は形だけの出立式（一応けじめをつける）となりました。自然は人間の思う通りにいかないものだと、改めて実感しましたね。しかし、河川水が入ったおかげで魚採りはかなり大漁。子供達の笑顔も見れましたし、結果オーライです!!



出立式の様子



手探りで魚を探す!!



魚に興味津々♪



土嚢があげられ水が入ってきます

公募研究の内容について ～続々と研究者が来てます～

Vol.12で紹介した公募研究の詳しい内容を下表のように紹介します。内容が専門的すぎて訳が分からないかもしれませんが、あらゆる角度からアザメの瀬の自然再生を評価するのに必要な内容を提案してくれています。現地で会ったときには質問してみましょう。

研究者	内 容
桜井慎一 【日本大学】	CVM手法によってアザメの瀬を評価しています。CVM(Contingent Valuation Method: 仮想評価法)手法とは、アザメの瀬のように利用価値を直接はかれない物をアンケート調査や聞き取り調査によって金額として評価する手法です。あなたはアザメの瀬自然再生に年間5000円支払えますか?みたいな感じです。
山口裕文 【大阪府立大学】	アザメの瀬において復元してくる植生の構成種から生態系評価適性を持つとされる代表種を選定し、その遺伝的特徴を近接地域に自生している同種個体群とともにある手法によって分析、評価し遺伝的多様性の動態を調査しています。難しい...
西廣 淳 【東京大学】	土壌シードバンクによる植生回復過程の調査し、自然再生事業における適切な植生導入手法を研究します。アザメの瀬にはどんな植物が生えてきているのか(1回/月)を調査します。あやしい植物を見つけたら、相談?
望月俊宏 【九州大学】	アザメの瀬への養分の供給量、排出量およびバイオマス生産量を定点調査し自然再生のベースとなる養分可給量を評価しています。具体的には、アザメの瀬において定期的に土壌を採取し、窒素、リン、炭素などの有機物含有量の変化を調べています。それと並行に、流入水(松浦川や溜池)について水質調査も実施します。(バイオマスとは草木、生ゴミ、紙など)
増田泰久 【九州大学】	アザメの瀬におけるイネ科植物群落の推移を明らかにし、植物の推移に伴って周辺地域から移入してくる小動物(カヤネズミなど)の生息種とその生息密度調査を行うことで、イネ科の植物の安定的成立の指標として評価します。分かりやすく言うと、カヤネズミの定着によって、イネ科草本群落の成立を評価するということです。
中島敦司 【和歌山大学】	アザメの瀬のような自然再生事業によって形成されるピオトープ空間が生物相復元にどれくらい効果があるかをアメンボのような身近な動物を使って、評価をできるようにする技術開発のための生態調査を行います。ちなみに、ピオトープとは生き物の住む場所という意味です。

第20回検討会開催！ H15.7.9

今回の検討会では『①アザメの瀬の現状における問題点の把握と対策』『②アザメの瀬橋はどのようにするか』『③付替道路の舗装』について議論しました。いつもに増して内容が濃い検討会であったと思います。

①アザメの瀬の現状における問題点の把握と対策

問題点

- 土砂の流出が甚だしい
- 河床材料が粘土層であるためぬかるんで危なくないか
- 水路部に達するまでの法面勾配
- 瀬と淵の創出

話し合った結果



将来的には周辺地盤を1m位掘り下げる。その際、**法面勾配を30%以下にする**。しかし、現段階では土砂流出や掘削などは行わず、しばらく**落ち着くまで見守る**という結論になりました。



- 濁度が激しいため、透明感が出ない！

工事中であることや、洪水が起きたばかりなので汚れているだけ、**そのうち良くなるのではないが**全体に表土を蒔くことで草が生えてきて土壌の流出が少なくなるだろうという結論になりました。



- 沼と化している三日月湖をどうするか？危なくないか？

今回の検討会当日、松浦川出張所の方で三日月湖の水を下げるためにクリークと三日月湖の間を掘って繋いで水位を下げて頂きました。御苦労様でした！

②アザメの瀬橋改築について

今回、なぜアザメの瀬橋を架け替えようとなったの？それは昔、アザメの瀬は後背湿地で川の水が頻繁に入ってくるような場所でした。また、アザメの瀬の一部は松浦川であったということもあります。これを背景に**松浦川も昔の川幅に戻してはどうか？**ということになり、現位置の橋の架け替えを考えることになりました。

後背湿地の前には氾濫を繰り返しながら自然に形成された自然堤防が存在

昔は川だった場所



橋を架け替える際には、どのようなものにと意見を交換すると・・・「橋の高さが高すぎるから低い位置にして欲しい」「橋の幅員が狭すぎて軽トラックしか通れない」等の意見が今までの検討会の中で議論されてました。今回の検討会では、さらに具体的な議論となって、「**木橋は維持管理が難しい**、また舗装はアスファルトよりはコンクリートがよい」「**橋が低い方が流木が橋の上を流れていく**」「**橋下の河床高は現状を維持して欲しい**」などが出されました。橋の地盤高は、車で橋の上を通った視界を高さごとに示した上で議論すると、「**40cmは高すぎる。もう少し低く！**」など具体的に話し、結局は20cm位が妥当ではないかとの結論になりました。

③付替道路の舗装について

舗装面、道路の色はどうするかという議論を行いました。その結果、「**グリーン系の道路より茶色の道路の方がアザメの瀬の風景にマッチするのでは？**」「**車も通るから耐久性も必要だ！**」「**今度の検討会で舗装のサンプルや設計が見たい**」などの意見が出ました。この付替道路の色でアザメの瀬に初めて入ってきた人の印象が決まるんじゃないかと編集している私自身も思います。なるべく自然とマッチしたものを造りたいので、どんどん御意見お願いします！

編集後記 アザメの会がとうとう全国デビューを果たしました！！右の写真は全国デビューした川のロワーショップの写真です(少し小さいですけど)。7月30日、武雄市民会館で行われた『水ネット設立総会』にも積極的に参加するなど、どんどん活動が活発になってきてます！今後の活動に要注目！

国土交通省武雄河川事務所 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193 <http://www.qr.mlit.go.jp/takeo/>





アザメ新聞

平成15年10月1日発行 Vol. 14

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol. 13ではアザメ出立式、第20回検討会、アザメの瀬公募研究の内容をお伝えしました。
Vol. 14では第21、22回検討会をお伝えします。

第21回検討会開催！ H15.8.5 子供達と共に！！

第21回検討会は子供達を集めての検討会となりました。この日のために前々日の8月3日（日）にアザメの会の方と子供達が一緒になって、伝統漁法である“はえ縄”の仕掛けを造ったり、川で安全に楽しく遊べるようにと川辺の除草やロープを川面に張ったりと汗だくになりながら準備しました。



一緒になってはえ縄を造る（延長10m×針25本）



完成した仕掛け 2基

さて当日、仕掛けていた“はえ縄”“カニ網”をあげてみるとウナギがかかってたり、スカだったり一喜一憂しながらも大盛況！！その後、事業地内が乾燥してしまうのを少しでも緩和するため、ため池側からの水を引き込む導水式も行いました。

その後は・・・子供達が服を着たまま川に飛び込んだり、アザメの瀬に底泥にはぬかったりと大はしゃぎ！！大人は大人で島谷所長自ら魚捕りにいそしんだり夕方までアザメで過ごしました。さて、夕暮れ時、今日の体験を踏まえて子供達を集めて『こんなアザメの瀬だったらいい』といったテーマでお話をしてみました。すると「いろんな生き物と触れあえる場所がいい」「たくさん魚が捕れるところ」「みんなと仲良く遊べるところ」「いつでも遊べる場所」「魚釣りができるところ」「釣り竿と餌が置いてあったらいい」など純粋な意見が飛び交いました。



子供は子供で・・・



大人は大人で・・・



「アザメの会」による現地説明

ほとんどの意見が“楽しいアザメの瀬”“人と触れ合えるアザメの瀬”“魚がたくさん棲めるアザメの瀬”に集約できるものでした。望まれるアザメの瀬にできるよう、武雄河川事務所は邁進していきます。みなさんも検討会で自由に発言してください。みなさんの納得のいくものにしたいですから！

さて、話は変わりますが、この時皆さんの前で説明していた人は、アザメの検討会で説明するのが初めてのため、最初から最後まで緊張してドキドキしていらしく、人前で話すことの難しさを痛感したとのことでした。



鯉、ウナギに興味津々



事業地に導いた水



いろんな意見をいただきました

第22回検討会開催！～今年の工事は～

H1594

今回は以下の内容について議論しました。

- ①公募研究者の近況報告
- ②プレハブ内にどんな備品を置くか？
- ③下流側の残地部の整備
- ④今年度の工事内容(右の平面図を参照)の各々について議論しました。



①公募研究近況報告

和歌山大学: 上流から流れ着いた柳の枝が発根。オオカナダモ・ホソバミズヒキモが水路内に定着。(8/20~22調査)

日本大学: CVM調査で問題発生！(詳細は下欄)

大阪府立大学: アザメの瀬現地で生えている植物を採取。田圃でみられる植物が大半を占めている(7/24~27調査)

東京大学: 246種の維管束植物〔花の咲く植物とシダ植物〕を確認。そのうち29種が外来種！！セイタカアワダチソウ・アメリカセンダングサ等の駆除を提言。昆虫調査では29種ものトンボ類を確認！！関東の1回の調査での確認数は10種程度だが、アザメでは2日間で上回る種を確認。(7/23~25調査)

③下流部の未整備エリアには、将来を見据え、見学者用の駐車場の整備が必要不可欠との意見が多数でした。中には佐里上地区の方にも駐車場を造ってアザメの瀬橋を渡って訪れられるようにしてはとの意見も出ました。私も車をとめて湿地部まで歩いてきてもらえたらと思っています。

②公募研究者の方々がデータ整理するのに机・いす、見学に来る人に渡せるパンフレット、調査に必要な器材(投網や水槽等、ゴムボート)は必要ではとの話でした。これらに対応出来るものから調達していく予定です。また、雨水を貯めてそれを利用して汚れた手足を簡易的に洗える“天水桶”もいるという意見もありました。



(↑天水桶ってこんな感じです↑)

④H15年度は町道の移設、松浦川右岸側の護岸を撤去、事業地内を湿地的な環境が維持できる高さまで掘り下げるといった工事を行いますと伝えました。次回の検討会時に各々詳細に議論することを確認しました。

CVM調査で事件勃発？！

公募研究で日本大学の櫻井先生が自然再生事業評価のために行っているCVM調査。調査すると地元の方からこんな意見が出ていました。『アンケートの主旨がわからん』『そんな質問すると自然再生事業に反対する人が出てくる』『もうアンケートはしなくていい』など……。このままでは調査を継続することが出来ないため、9月19日、急遽櫻井先生がアザメにいられて説明会を開くことになりました。反対した内容を聞いてみると、『賛成してるのに、何で25,000円払えますかって聞くんた！また逆に隣の家が500円で聞くんた！（払いたいけどそれは正直高すぎるから、反対だと受け取られかねない！！）』というような内容でした。

しかし先生のわかりやすい説明を聞くうちに誤解が解け、笑い話になったりと十分CVM調査の意義をみんなで勉強しました。今回のように最初に質問の主旨や内容を詳しく教えて欲しかったと思った人もいましたが、研究的には、詳しく教えずきと研究にならないという話もあるようです。その辺の兼ね合いが今回の事件の発端でした。

まあ、誤解も解けましたし一件落着ですね！！



編集後記

これから本格的な2次造成の工事に入ります。普段よりダンプトラックが多く通るなど、多少なりともご迷惑をかけることになるかもしれませんが、御協力の程よろしくお願いします。

国土交通省武雄河川事務所 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193 <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成15年11月14日発行 Vol. 15

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol. 14では第21、22回検討会の内容をお伝えしました。
Vol. 15では第23、24回検討会、堤返し、九州川のワークショップの内容をお伝えします。

第23回検討会開催！ H15.10.6 現状の問題点の把握とこれからの課題を討論！



第23回の検討会は公衆研究の大学の先生方、土木研究所の方々
と現地調査をしつつ、現状の問題点や課題について話し合いました。
まず、④の湿地の中に入り、どのような状況になっているかを調べ、その後、事業地内のク
リーク沿いを歩き、問題点の把握を行いました。



検討会の様子

①アザメの瀬の地盤高、クリークの水深、法面の処理、河畔林やクリーク内、湿地部の植生をどのようにするか？【現在の地盤高は高すぎるため乾燥している所が多く、セイヨウアザミやアメリカザリガネなど外来種の侵入が激しい】

○地盤高は土が保水している高さまでは掘削し、クリーク法面崩壊による土砂堆積を見込んで設定するべき。

○河畔林には柳や竹を移植するが、当分事業地内には木は植えない方向で見守る。また、植物の種を鳥の糞で運ばせることも考えられる。

○ため池底泥を事業地内に撒き出すことで、地域に見合った植生を復元できる可能性有り。

○クリーク内の水質が地盤の石灰処理のためアルカリ性の値が大きくなっている。動植物への影響が心配だから、掘削する際は石灰処理を行った土を外部に搬出すべきである。

②町道を造ることによる問題点

○山側と湿地側を分け隔てないような連続性の確保も考えた施工を行ってはどうだろう。

○将来問題となるかもしれないロードキル（道路を通行することによる動物への悪影響）は動物優先時間帯を設けてみてはどうか。

③ゴルフ場側からの水の利用（導水）

○アザメの瀬に本当に通水するのかを含めて、水質調査結果を踏まえ、判断する必要がある。



④の湿地



シャジクモ

タイコウチ

④アザメの瀬の手本となる良い湿地が形成！！

○④の地点にはホタルイ、イボクサ、ミゾカクシを始めとする湿性植物が生えており、シャジクモ、キクモ等も生えているため植生復元の目標として参考にする~~と良い~~のでは？また、コオイムシやタイコウチ、ミスカマキリなどの水生昆虫もたくさんいる。

⑤アザメの瀬の玄関である駐車場部をどのように工夫するか？

○駐車場部に見学用のシードバンク施設を設けることで、アザメの瀬にどのような植物が生えているか見てもらえるようにしてみてもどうか？



クリークで投網投げると...



こんなに採れました！

アザメの会、堤返しを実施！ H15.10.12

2年に1回程度行う堤返し・・・水位の低くなったため池の中を恐る恐る歩き、魚を次第に追い詰めていく子供達。魚影が見えると、目の色変えて、魚を捕まえに行く姿はとて新鮮でした！魚めがけて体ごと捕まえに行く人もいました。みんなで追いつめて捕る姿は、世代を越えた連携で、感動します。でもどっちかと言うと大人の方が真剣？



恐る恐る池の中へ・・・



鯉、デカッ！！

堤返しの後、セイヨウアザミ、アリヤアザミ、ツバキ等の外来植物の除草をしました。言うことを聞いてくれない

まださすおもしろそうな土を採取しました



この辺りの5地点で底土を約30袋採取。

今回採取した底泥は、アザメの瀬掘削工事後、クリーク内に蒔きだして、植生の回復に役立てたいと思います。蒔くことでひょっとして貴重な植物が生えてきたりして！？

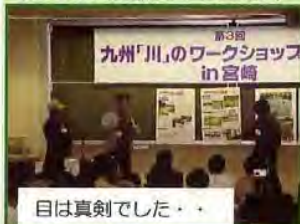
子供達に、僕も正直参りましたが、外来植物の存在と名前を少しは分かってくれたと思うので、OKです！



除草作業状況

九州川のワークショップin宮崎 H15.10.25~26

経験がものをいった九州川のワーク・ショップ。余裕しゃくしゃくのアザメの会の方々はその経験を生かし、今回大会会長賞を頂きました。（拍手！！）



目は真剣でした・・・



説明にも力が入る！



表彰式の様子



なぜカッパ賞？

惜しくもグランプリは逃しましたが、アザメの会の今後の活躍、期待します！みんなでがんばっていきましょうね！ちなみに来年の開催は熊本県ですよ！！

リバーパル五ヶ瀬川にも行って参りました！！～H15.10.27～

九州では自然再生事業をやっている河川が2つあります。その内の1つである延岡県北川水系友内川【ちなみにもう一つはアザメの瀬】。そこ友内川にある施設リバーパル五ヶ瀬川で“友内川を考える会（仮）”と交流し、意見交換し、互いの自然再生事業に対する思いを語りあいました。この交流の状況は地元延岡市の新聞紙上に掲載されるなど、東九州でもアザメは有名になりつつある？



友内川での交流会の様子

第24回検討会開催！ H15.11.11



鳥谷 幸宏（しまにゆきひろ）氏
平成15年10月31日付け 国土交通省武雄河川事務所長
↓
平成15年11月1日付け 九州大学大学院工学研究院 教授

武雄河川事務所長

人事が行わる！！ バトンタッチ！！

尾澤 卓思（おざわ たかし）氏
平成15年10月31日付け 独立行政法人土木研究所
水循環研究グループ河川生態チーム 上席研究員
↓
平成15年11月1日付け 国土交通省武雄河川事務所長

今回、今まで議論された内容を踏まえ作成した全体整備計画図の新たな構想を説明しました。今後の整備計画を決める大事な内容であるため、じっくり時間をかけて議論することとなりました。また同じくみなさんの思いを計画に反映させることもできますので、様々なご意見をお願いします。



第24回検討会の状況

編集後記 どうとうこの日が・・・アザメの瀬をここまで大きくし、また成長を見続け、自ら先頭に立って陣頭指揮にあたっていた鳥谷所長が今回異動することとなりました。必ずこんな日は訪れるのですが、やっぱりさみしいものです。アザメの会の方も初めて耳にしたとき「本当？行かないでっ！！」と思った方もいたと思います。けれど今後もアザメの会の『顧問』として検討会等、行事には出席するとのことですので、これまで同様にいろいろ教えてもらいましょう。

国土交通省武雄河川事務所 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193 <http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成16年3月2日発行 Vol. 16

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol. 15では第23、24回検討会、堤返し、九州川のワークショップの内容をお伝えしました。
Vol. 16では第25、26回検討会、アザメの瀬トレンチ調査の内容をお伝えします。

第25回検討会開催！ H15.11.25

現状の問題点と現況報告！

できたばかりの相知町交流文化センターで行った第25回の検討会。アザメの瀬クリークと周囲の湿地の平面位置等について熱く議論しました！

工事、出水時期等の関係で初めの計画よりもかなり松浦川本川の方に近づいたアザメの瀬クリーク。『今回の工事で、当初みんなで計画した平面位置に戻そうよ』という意見が出た。賛否両論だったがその結果は？



部屋いっぱいの人



アザメの瀬クリーク

クリーク堤防を一部低くし、そこから水を平坦部に入れ湿地部を作る【青色：堤防取り除き部 水色：アザメに入る水】

結論は今あるクリークをつぶしてまで新しく作る必要があるの？ということで、これまでの位置でOK。ただし工夫を凝らし、アザメの瀬クリーク堤防を一部低くすることで、水を周囲の湿地部に導入しやすくして湿地部を維持するということに・・・「よくこんなこと思いつくな」と感じました。と、同時にいいものを作りたいという思いが伝わってきます！！

15.11.20アザメ川の写真



アザメの瀬トレンチ調査実施 H15.12.09

第25回検討会で『クリークをどれだけ掘り下げるか』を、地下水位の状況を今一度確認して決めたほうが・・・ということで、松浦川出張所の協力のもと、アザメの瀬現地でトレンチ調査（素掘り）を行いました。掘ることによっていろいろと昔のアザメの様子を見ることもできました。

地表高T.P. 4.3m



①粘土層（灰色部分が酸化されている粘土）②粘土層（①層に比べ色が濃く酸化されていない粘土）③アザメが川だった？頃の河床材料（粒子が丸い）

右の写真は②の層から見つかった、大昔の木の葉が炭化したもの。葉の形がくっきりと残っています。



今回の調査から、現地盤（T.P.4.3m）から2.5m程度掘り下げると湧水がでてくることが確認できました。よって湿地面地盤高T.P.1.5m程度に設定すれば必ず湿地的環境が維持できることが推測できました。また③の層が砂礫層であることから、昔は松浦川が流れていたのではと推測できます。



湧水の様子

第26回検討会開催！ H16.1.9

湿地内の観察路どうするの？

新年に入り1回目の第26回検討会。新年早々、かなりヒートした検討会になり、1) ビジターセンター施設見学、2) モニタリング道路の設計について話しました。

1) ビジターセンターの施設内はどこを参考にすればいいの？

- ◎ 施設見学はただ見に行くだけでは意味がない！例えば、**維持管理・施設の規模**などポイントを絞って見に行ったほうが良い。
- ◎ ビジターセンターに設けるトイレは環境に配慮したものがいいのでは・・・。

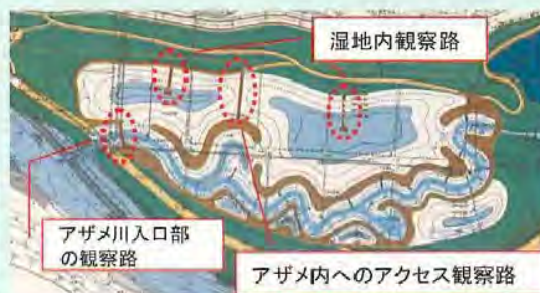
などの意見が出ました！結局、見学場所は『**たばら昆虫自然園**』（長崎県田平町）などに行きます。次回の新聞で見学内容をお伝えしますので乞うご期待！



検討会の様子

2) 湿地内のモニタリング道路（観察路）はどんなものを、どれくらい作るの？何か良いアイディアない？

- ◎ ハツ橋は**人工物**だからなるべく最小限の数で抑えたい！
- ◎ 湿地内が出水でどう変化するか予測できないため、安い国産の木でハツ橋を作っては？しかし、出水ですぐ壊れたのでは意味がないのである程度の**強度は必要**！
- ◎ 単管に木をのせて安価に済ませ、今後の様子見て、恒久的なものを設けたら！
- ◎ イカダ橋（流れ橋）を付け、出水がきたら流れるようにしたら？管理は大変だけど、ゴミが引っかからないし何度でも使えるから経済的。
- ◎ 最初から管理も何もいら**ない石がいい**んじゃない？アザメの瀬橋の下にいいのがあるよ！



ハツ橋イメージ写真

結局、アザメの瀬クリーク入口は落橋した石橋の再利用、他の観察路は単管で今後の様子を見た後、恒久的なものを付けてみてはということになりました。こんな意見は事務所内だけで話したのでは、なかなか出てこない発想だと思います！アザメをいいものにしようとするみんなのパワーはすごいもんだ！としみじみ感じました。

余談ですけども、湿地の山側に取り付ける道路の側溝は、生き物が滑り落ちてはい上がることのできる側溝です！これで**湿地と山側とのアクセス出来やすくなりますね。**

今回の皿形側溝イメージ
(這い上がりやすい)



編集後記 平成16年も暮開け、アザメの激検討会もH13年11月の第1回から数えて26回となりました。毎回みなさん方と議論を重ね、練り上げてきた計画が現在、工事によって全容が現地で直に明らかになってきました。日に日にこれから工事が進んでいきます。楽しみですな。

国土交通省武雄河川事務所 Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193 <http://www.qsrc.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成16年10月12日発行 Vol. 17

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。

この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

Vol. 15では第25、26回検討会、アザメの瀬トレンチ調査の内容をお伝えしました。

Vol. 16では第27、28回検討会、アザメの瀬研究発表会、イダ嵐見学会の内容をお伝えします。

第27回検討会開催！ H16.2.5

施設見学会の報告・アザメの瀬の環境学習施設に対する意見抽出

アザメの会・武雄河川の職員が、環境学習施設の基本構想の参考とするため検討会に先立ち、田平昆虫自然園（長崎県田平町）、生月島 島の館（同県平戸市）の施設見学しました。

検討会では、施設見学の報告と、報告結果を踏まえてアザメの瀬の環境学習施設に対する意見をうかがいました。



施設見学の報告では、①もっと簡単で人がふれあえる場所がない ②ボランティアの協力がある、③展示物に金をかけていない ④維持管理が大変などといった意見が出ました。一部の参加者から、「ここは見習いたいとか」、「これはあんまり…」といった感想もありました。

視察結果を踏まえてアザメの瀬の環境学習施設に対し ①シードバンクの展示 ②水中の魚がみたい ③学習館の中身が大事 ④ボランティアの活用 ⑤みんなの憩いの場所 ⑥撮影した写真の展示 ⑦子ども達が捕まえた魚や昆虫の展示があったらいいのという意見がだされました。

今後実施する工事予定として町道の新設、築山、クレーク掘削工事が予定されていることも報告しました。

第28回検討会開催！ H16.3.2

アザメの瀬の近況報告と、アザメの瀬の環境学習施設の方針を議論！

季節はずれの出水（2月29日）により、施工中のクレークや湿地等が冠水しました。工事関係者だけでなく、地元の人たちもびっくりの出来事でした！

アザメの瀬の環境学習施設の基本整備方針は、前回（H16. 2. 5）の検討会に出された意見をもとに設計方針を作成することとなりました。

◎主な意見◎

- ①維持管理が膨大とならず、負担を強いることのない施設
- ②もっと単純で人がふれあえる場所（現地視察した2施設はイメージが違う）
- ③建物の大きさより、中身の展示物で勝負だ（農具、シードバンク、アザメ内の魚）
- ④学習の場を設けた方がよい。
- ⑤みんなの憩いの場、子ども達の場所
- ⑥徹底したバリアフリー化

これらの意見をもとに議論を行いました。①②をうけて、相知周辺の家屋形態をみならって、母屋・納屋といった鍵屋形式としてはどうか？ ③④をうけ、多目的スペース（説明・広報の場、勉強の場等）は、1クラス30名程度のスペースは最低必要ではないか？ ⑤⑥をうけ、周囲の景観に考慮し、デザインは平屋の古民家風の施設にしてはどうか？ という方針をたてました。

この方針をもとに、建物の外観は古民家風に、建物は母屋と納屋の造りとし、母屋の果たす機能は、①集会・説明場・休息場といった多目的スペース②パネルなど説明に必要な備品の展示スペース③学習資料置き場とし、納屋の果たす機能は①受電・受信室①情報管理棟②トイレ、③倉庫として活用するなど、より具体的に多目的スペースの広さ、展示スペースの展示内容と展示場所、間取りの配置計画について整備方針を策定しました。

トイレは、環境に配慮するため①合併浄化槽②エコトイレ③バイオトイレについてそれぞれの特徴、設置費用、維持管理費を説明し、議論しました。

アザメの瀬研究発表会 H16.3.18

みんなでアザメの瀬の研究を発表

相知交流文化センターにてアザメの瀬研究発表会を開催しました。公募研究の日本大学、大阪府立大学、東京大学、九州大学、和歌山大学、土木研究所 自然共生研究センターの研究者らが参加し、この1年間に研究した成果を発表され、また武雄河川事務所より現状報告、厳木高校よりシードバンクの研究について発表を行いました。



発表会は参加人数が50人くらいで、地元の方々も積極的に参加され、時には質問も飛び出したりしていました。

先生方の発表内容がわからない方は、アザメの瀬で先生方に会ったときにでも質問してみてください！喜んで、研究内容を教えてくれると思いますよ！！（先生もそれを待ってたりしてます！）

第2回イダ嵐見学会 H16.3.21

アザメの瀬でイダが獲れた？！

3月21日アザメの瀬前でイダ嵐の見学会を行いました。この時はイダがすでにアザメの瀬を通り過ぎた後であり、イダが全く獲れませんでした…。やっぱり自然は厳しいですね！！しかし、事前に出駒鳴地区の方より立派なイダをわけて頂いておりましたので（駒鳴地区の方々どうもありがとうございます！！）、それを皆で料理しおいしく頂きました。来年こそはアザメの瀬でイダがいっぱい獲れますよう～に！！

イダ嵐：春一番が吹くと、イダ（ウグイ）が産卵のために海から川へ一斉に上ってくる現象をこの地域ではイダ嵐とよびます。



↑駒鳴地区の方々より頂いたイダ！！
とても大きくて立派です。
おいしそう…



↑みんなで頑張って釣ったんですけど駄目でした…



↑子供たちにイダ嵐を説明される山口会長



↑イダをみそ汁にしている写真です。味付けは、やっぱり久我さんしかいない。

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成16年11月11日発行 Vol. 18

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol. 17では第27、28回検討会、アザメの瀬研究発表会、イダ嵐見学会の内容をお伝えしました
Vol. 18では第29、30、31回検討会、皇太子殿下視察、アザメの瀬シンポジウムの内容をお伝えします。

第29回アザメの瀬検討会 H16.4.14

第29回アザメの瀬検討会では、主に新メンバーの紹介、アザメの会によるイダ嵐の報告、第1回アザメの瀬研究発表会の報告、ビジターセンターの間取りの再確認、今年度の工事の内容等を話し合いました。

第28回の検討会より右のような間取りの修正案を第29回で話し合いました。出された意見・決まったことは以下の通りです。



- ①コンクリートの床に樹脂シートを張れば、掃除もしやすいのでは？
→アザメにマッチするのはフローリング(全員一致で決定！)
- ②アザメの瀬の中に入ると足が汚れる。足洗い場があった方がいい！
→ 全員一致で設置することに決定！

皇太子殿下アザメの瀬視察！ H16.4.24

相知町佐里地先に皇太子殿下が「みどりの愛護」の一環としてアザメの瀬をご見学されました。その際、展示する魚を地元の方と事務所職員で採ったり、『アザメの瀬だからアザミの花を！！』ということで、地元の方が事前に立派なアザミの花を取ってきて、鉢植えして生かしたり、アザメの瀬周辺(松浦川も含めて)を地元総出で掃除したりと大忙しでした。



←殿下と地元の方の間にあるアザメの花。この日に相応しい立派なアザミでした！



平成16年4月25日佐賀新聞より抜粋

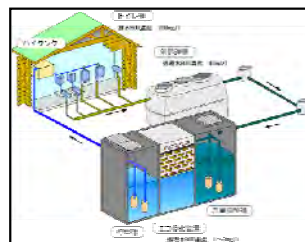
魚の説明にあたった久我さんは『「松浦川特有のヨシノボリに興味があるようだった何でも知っておられた」と感心された様子でありました。』

第30回アザメの瀬検討会 H16.5.27

第30回アザメの瀬検討会は、主にビジターセンターの間取りの再確認、環境に配慮したトイレ(エコトイレ・バイオトイレ)のどちらをビジターセンターに設置するかということ話をしました。

出た意見・決まったことは以下の通りです。

- ①間取りの配置は設計通りでOK！
- ②バイオトイレは聞こえはいいが10年後は誰が管理するの？先行きが不安である。
- ③今までもアザメのでは新しいものを取り入れてきた。うちが他施設の見本になるという点でバイオトイレは魅力的である。



↑エコトイレイメージ図

↓バイオトイレイメージ図



②③の意見があったのでみんなで実物を見て決めようと言うことになり、第31回検討会はトイレの施設見学です。

アザメの瀬シンポジウムの開催 H16.5.29

相知交流文化センターにて応用生態工学会主体によるアザメの瀬シンポジウム「自然再生事業における市民参加」が開催されました。まず、武雄河川が事業紹介、基調講演として九州大学島谷幸宏さん、研究紹介として東京大学渡辺敦子さん、活動報告としてはアザメの会長 山口直子さん、厳木高校より発表が行われました。

パネルディスカッションのパネラーとしては鷺谷先生を始めとする先生方が参加されました。シンポジウムの参加者は約100名ほどでした。



第31回アザメの瀬検討会 H16.6.24

第31回アザメの瀬検討会では、バイオトイレ(肥前町:自然体験ハウス)・エコトイレ(北波多村:四季の丘公園)の現地見学会を行いました。

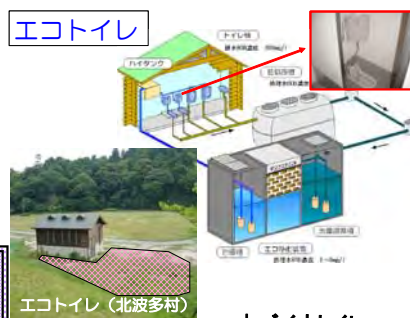
現地見学会でそれぞれ実物のトイレを見た後に検討会を行い、どちらのトイレを設置するか検討しました。

◎主な意見◎

- ①バイオトイレは、おがくずの交換が大変すぎて、今後の維持管理が不安である。
- ②エコトイレは普通のトイレと見た目は全く変わらないため、誰でも違和感なく使用できそう。

①②より、みんなで話し合った結果、エコトイレを採用する事となりました。今後もこのように、みんなで納得するまで話し合い、決める姿勢を頑張ってやっていきましょう！

エコトイレ



エコトイレ (北波多村)

↓バイオトイレ



国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成17年 3月31日発行 Vol. 19

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
 この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
 Vol. 18では第29、30、31回検討会、皇太子殿下視察、アザメの瀬シンポジウムの内容をお伝えしました。
 Vol. 19では第32、33回検討会、アザメの会主催での川遊びの内容をお伝えします。

第32回アザメの瀬検討会 H16.7.22

第32回アザメの瀬検討会では、アザメの瀬内で現在繁茂しようとしている植物(外来種含む)についてどう管理(外来種対策)するのか?で議論しました。

まず、武雄河川から“みんなのアザメなので、みんなで草刈りをしましょう”といった提案をしましたが…。地元のみなさんは、『う～んな事言たって外来種とそうでない草の見分けがつかんさ～!!! そんなの無理! 無理!!!』といった意見がでました。結局…今回は事務所の方で対応することとなり、地表面から約30cm(セイタカアワダチソウの地下茎深さまで)掘りました。

全国川の日ワークショップ 「アザメの会」出動!!! の巻



第32回検討会に先立ち、7月10日～11日に第7回川の日ワークショップが、東京にて開催されました。

アザメの会は、1次予選を通過し、最終的にグランプリは逃しましたが、入選を果たしました。

全国の皆様に佐賀県に“アザメあり”と認めてもらいました。



アザメの会参加
 1次予選、見事1位で通過後、入選

(グランプリは、来年にとっておきますとの山口会長)

川遊び ～アザメの会主催～ H16.8.20

魚釣り・勉強会・ハーベキュー



アザメの瀬においてアザメの会主催である子どもたちを招いての「川遊び」と題したイベントが開催されました。

アザメの瀬周辺の子供たち・・・約30名

日差しがさす中、子どもたちは水の中で泳いだり、魚釣り大会、またアザメの瀬に生えている草(植物)についての勉強会を行いました。(プレハブ中は蒸し風呂でした。。。)



魚釣り



ブラックバス・ブルーギル・フナ・ハヤ 等…計50匹



勉強会



川遊び

第33回アザメの瀬検討会 H16.8.26

第33回の検討会では、武雄河川で行っているアザメの瀬での生物調査の結果報告(中間分析)をしました。中でも”魚の産卵調査”結果をメインに報告しました。

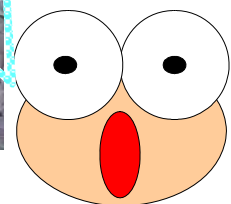
地域の方々は、かなり興味があるよう思わず、『うおおおおお！！』という歓声があがりました。

▼魚類産卵状況（6月25日撮影）



▲定置網への産卵状況 ▲柴への産卵状況

6月28日
捕獲状況▼



ナマズ・コイ・フナがこんなに・・・

おっとここで気になる魚の卵は・・・



ナマズの卵



フナ属の卵



柴漬けに付着した卵



モツゴの卵



早朝に捕れた？卵



ブルーギルの卵

生物調査結果から、アザメの瀬地区がフナ・コイ・ナマズ等の産卵の場となりつつあることを確認しました。Y(^ー^)

今後は、今以上に多くの種類の魚の産卵の場また、産卵の場だけでなく魚及び植物等他の生物の生育[生まれ育つこと]・生息[生きて生活すること]の環境創出という観点からモニタリング計画[調査方法・調査時期・調査手法等を定めた計画]を策定し、進めていきたいと思っております。

今後こういった調査を継続してやっていくことにより、アザメの瀬での生物に対する効果を把握していくことが必要だと考えております。

国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



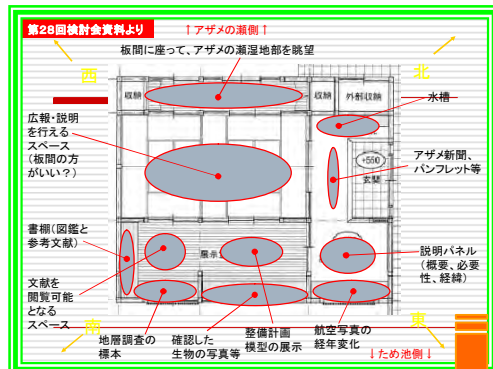
アザメ新聞

平成17年 月 日発行 Vol. 20

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol. 19では第32, 33回検討会、アザメの会主催での川遊びの内容をお伝えしました。
Vol. 20では第34, 35, 36回検討会、アザメの会主催での堤返しの内容をお伝えします。

第34回アザメの瀬検討会 H16.9.29

今回は、今までの整備に関する[中間分析報告]・第28回検討会を踏まえ、[環境学習施設の計画変更後の平面図の説明]などをメインに話し合いました。

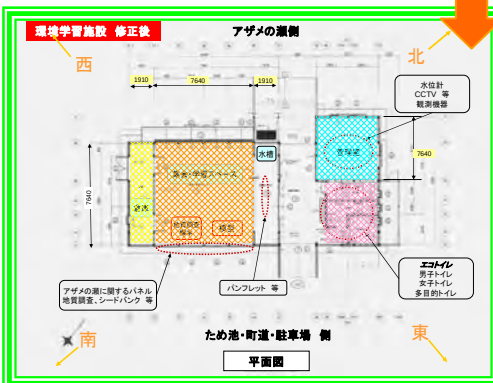


Q 環境学習施設での水(飲み水等)供給については?

A 当初は、計画されてなかった。(地元了承)

↓
しかし、実際問題水は必要だろうな～(アザメの会)

↓
次回、第35回検討会で案を出す!!!



(^o^)やってきました 堤返し～アザメの会主催～

H16.10.11



今年もやって来ました～”堤返し
“!!!

この日は、曇り空で始めのうちは、なかなか水の中に入ろうとしない子どもたちでしたが、一人はいるとそれに火がついたのか次々と自前の網を持って「捕るぞ!!!」っと大声を上げ、お魚捕獲に向けて水の中へ飛び込んでいました。

やっぱ子どもは元気が一番ですな～。

▲ アザメの会で作成された広報誌

第35回アザメの瀬検討会 H16.10.28

第35回の検討会では、前回検討会(34回)にて課題された「環境学習施設の水供給についての検討内容報告」、「環境学習施設の利用」、「工事のお知らせ」等をメインに話し合いました。

◎ビジターセンターの使い方(利用方法)

1. 地元のみなさんの親しみの場

つつみかえし、
イダ嵐見学会、川遊び 等



2. 子供たちの自然学習の場

自然(魚・植物等の生き物等)に触れあい、体験する
イベント等にも参加



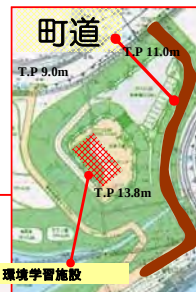
3. 現場研修の場

自然環境の学習

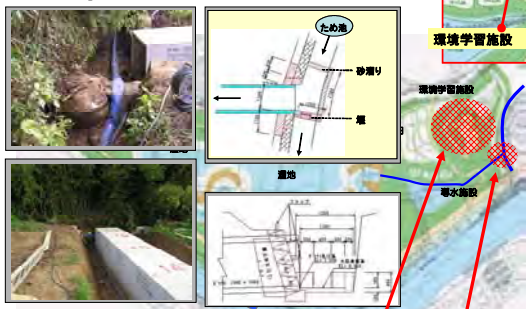
◎利用者等への飲み水について



ウォーターサーバ



☆工事のお知らせ☆



①ビジターセンターの盛土は、12月いっぱいまで完了予定!!!

②ため池からアザメ川に水をいれるために、既設水路部にコンクリートで堰をつくります。

Q1 環境学習施設での
水(飲み水等)供給については?

A1 タンク方式[右図参考]で決定!!!

Q2 環境学習施設の利用について

A2 いろいろ利用できることは
いいことだ(アザメの会了承)

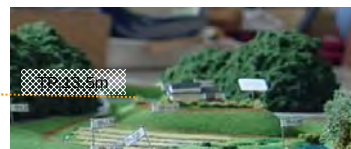
第36回アザメの瀬検討会 H16.11.25

第36回の検討会では、「環境学習施設の景観」・[町道(ため池側)]・[電柱(山側)]等について、話し合いました。

アザメ現況[H15.11.12]とアザメ模型との比較



▲電柱移設 案



▲環境学習施設景観

☆了承事項☆

Q1 電柱(山側)について

A1 松浦川左岸側から架空線を通す計画で決定!!!

Q2 環境学習施設の景観については?

A2 違和感はないと思う。盛土造成で了承!!!

Q3 町道(ため池側)について

A3 BOXについて管理しやすいように、
もっと大きいものにしてほしい。

↓
◎事務所で検討し、次回検討会(37回)で提示する。



▲アニマルロード対策 案

国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成17年 3月31日発行 Vol. 21

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
 この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
 Vol.20では第34、35、36回検討会、アザメの会主催でのつつみかえしの内容をお伝えしました。
 Vol.21では第37、38回検討会、平成16年度アザメの瀬研究報告会、イダ嵐の内容をお伝えします。

第37回アザメの瀬検討会 H17.1.25

年明けて、初の第37回アザメの瀬検討会が開催されました。

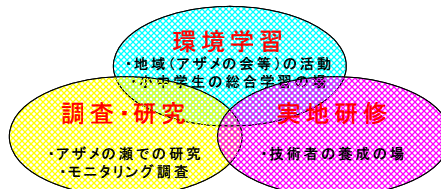
今回は、第5回検討会においてだされました「湿田・トンボ池等」においていよいよ平成17年度に整備予定でありますので、その「湿田・トンボ池等の規模、個数についての確認」及び「今後のアザメの瀬の利用」について話し合いました。

第5回検討会にてだされた住民構想イメージ



「アザメの瀬」の利用について

『人と生物のふれあいの再生』という目標に沿って、今後も継続的に「アザメの瀬」が利活用されていくための3つの柱



☆アザメの会の意見☆

①絵だけ見てもイメージわかんない。②トンボ池・蓮池・ジュンサイ池・クワイ田はひとつにしても・・・

↓

上記意見を受けまして、次回検討会でアザメの瀬に計画されている湿田等の実際の寸法をおとして、見て頂きイメージをつかんだ上で、規模等と決定するにしました!!!

第38回アザメの瀬検討会 H17.2.24

今回は、検討会前に来年度整備される内容について、現地説明会を実施し、”湿田・トンボ池“等についてイメージをつかんでもらい、検討会にて議論しました。



▲第37回検討会にて提示した絵



▲第38回検討会にて決定された絵

☆了承事項☆

- ①湿田は4個・石積み・規模は当初計画のままで決定!!!
- ②トンボ池・蓮池・ジュンサイ池・クワイ田をつなげる。(別図)

ついに決定致しました (^ー^)(^ー^)(^ー^)

▼ 対面式検討会



▲ 現地説明会

「平成16年度 アザメの瀬研究報告会」

H17.3.10~11

今年のアザメの瀬研究報告会は、ひのこち学舎（元佐里小学校）で行いました。元小学校だけあって、雰囲気はすごく和やかで、研究者の先生方も昔に戻ったような気分になれたと思います。1日目は研究報告会を、2日目は現地見学会を行いました。発表者の方々の内容は横の表の通りです。

平成16年度 アザメの瀬研究報告会 次第

日時：平成17年3月10日（木）～11（金）
場所：佐賀県唐津市相知町 元佐里小学校 ヒコチ学舎 大会議室

→平日の昼間と言うこともあり、最初は参加人数が少なかったのですが、後からどんどん増えました。



←研究報告会の参加人数はおおよそ30名ほどで、発表会の後はみんなで懇親会を行いました。

平成16年度 アザメの瀬研究報告会				元佐里小学校 ヒコチ学舎	大会議室
10日	時間	発表者	内容	備考	
	13:00	開会あいさつ			
		【受託研究者報告】			
	13:05	桜井徹一(日本大学)	CIAMIによるアザメの瀬の経済価値評価に関する研究	発表15分 質疑5分	
	13:25	西廣 淳(東京大学)	アザメの瀬における植生復元への土壌シールドバック利用可能の評価		
	13:45	望月俊宏(九州大学)	アザメの瀬再生過程における土壌微生物とバイオマスの評価		
	14:05	増田泰久(九州大学)	イネ科草本群落の成立と哺乳類の動物～特にカヤネズミの侵入・定着～		
	14:25	休憩(15分)			
	14:40	山口裕文(大阪府立大学)	アザメの瀬自然再生過程で復元する植物種の自然適性に関する生態学的評価	発表15分 質疑5分	
	15:10	中島敏史(和歌山大学)	自然再生事業による生物相復元効果の指標開発		
	15:30	島谷孝宏(九州大学) 代理: 池松 伸也	アザメの瀬における河道と植生環境の拡大について		
	15:50	山口会長(アザメの会)	アザメの会の現在と今後の活動状況		
	16:00	休憩(10分)			
	意見交換会	H16年度調査報告及び今後の予定			
16:10	①現状報告(事務局) ②意見交換会	今年度調査報告(調査結果、工事経過) 来年度以降の工事計画 観覧用について			
17:00	終了				
11日	時間	内容	備考		
	10:00	アザメの瀬現地見学			
	11:00	意見交換会	意見交換会はビジターセンター内にて		

第3回 イダ嵐見学会～アザメの会主催～ H17.3.20

今年で3回目となるイダ嵐見学会では、アザメの会による投網講座やイダ料理を振る舞ったりしました。肝心のイダ嵐は、前日の出水で上流まで行ってしまっており、見ることは出来ませんでした。前日、イダが上がっていくのを見た人によると、『イダの群れがひしめきあいながら、松浦川を上がっていった』とのことでした。やはり、なかなか見学会で見ることは難しいですね。今後はビデオ撮影でその様子を納め、見学会で小学生やイダ嵐を知らない方々にも見られるようにすれば、もっといいイダ嵐見学会になりそうです！！



↑みんな子供の頃に
戻ったように夢中で
投網をうってるよう
に見えました。



↑イダを料理中！さばいたイダは皆の口の中へ。料理している久我さんと松本さんは、こっそり、つまみ食いしてました。



イダの研究会
春を上げる「イダ」ウグイが来た

梅の花が咲き出した。開水期は大量となつてきます。
相知川産のイダ(ウグイ)にも少しづつの春を上げる。春一番の風が吹きます。
水かさが増えることにより、相知川のイダ(ウグイ)が川を遡ってくるので、
目で見てみましょう。

イダとのふれあい
日時 平成17年3月20日(日曜日) 9時～10時
場所 アザメの瀬ビジターセンター 講習会 投げ網学習実施します。
料金 大人1,000円 小学生半額
※イダの撮影は
禁止です。

投げ網講習
これが イダ(ウグイ)
イダの生態
今後の行事
※先子親所記念行事 松浦川の清流 4月24日 AM 9:00～9:00
ビジターセンター 開館 平成17年3月 開館予定
アザメの瀬 平成17年3月(NPO)立ち上げのお祝い
アザメの瀬研究報告会 平成17年3月(木) 15:00(佐賀県立元佐里小学校 大会議室)
※お申し込みは 相知川 相知町 相知第一

国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成17年 8月25日発行 Vol. 22

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
 この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
 Vol.21では第37、38回検討会、平成16年度アザメの瀬研究報告会の内容をお伝えしました。
 Vol.22では、第40、41、42回検討会の内容をお伝えします。

第40回アザメの瀬検討会 H17.4.27

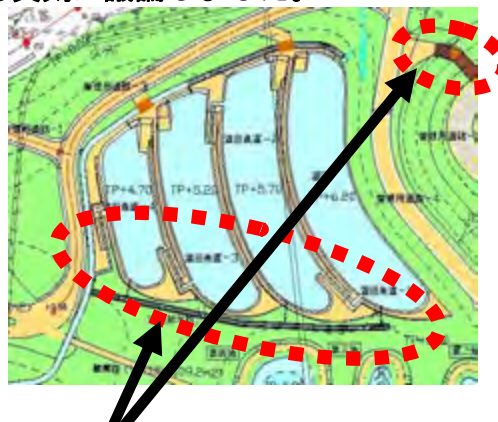
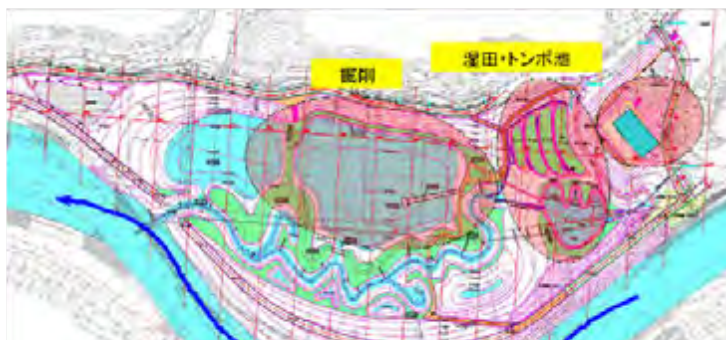
今回でなんと40回目のアザメの瀬検討会が開催！！

今回は、平成17年度の工事内容について議論しました。今年度の工事は、①環境学習施設(仮称)②上流部の池③湿田及びトンボ池の創出です。

今年度、アザメの瀬がほぼ完成しますので、みなさんも真剣に議論しました。

平成17年度工事のお知らせ

観測施設建設

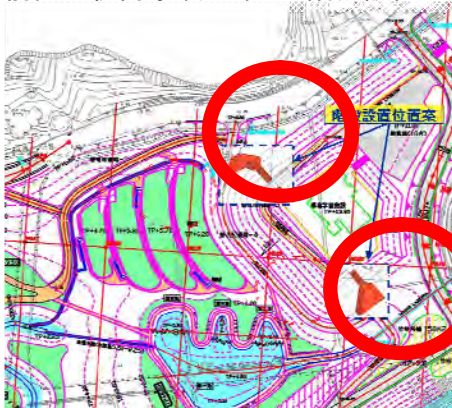


- ①意見として、湿田は4反(たん)あるが、例えば上の2反しか使用しない場合の排水はどうするの？
 排水ルート
 設けることはできない？
 ②湿田から観測施設へのアクセスについて市道からのルートがあるが、他にも階段をつけてすぐ行けるように
 できないか？
 ↓
 ①結果、利活用面等考慮し湿田に排水ルート(1反又は2反使用した場合の排水ルート)を設置！！
 ②次回検討会で案をだす

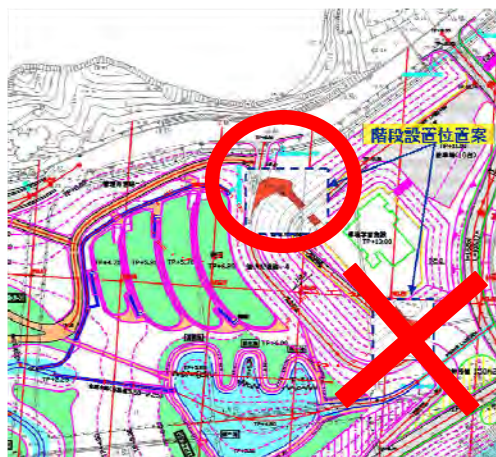
第41回アザメの瀬検討会 H17.6.7

今回は、8月に完成する施設について、親しみをもち今後活用して頂けるような名前について、募集を行い施設名に関する意見交換を行いました。また、前回の検討会で観測施設へのアクセスについて、「階段は、1箇所より2箇所あったほうが便利」との意見があり、再度、階段の位置について議論しました。

◎前回の検討事項であった階段設置について・・・



議論した結果、安全性と景観を考え湿田に近いほうのみ設置することになった。



第42回アザメの瀬検討会 H17.7.26

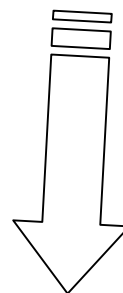
今回は、前回募集した環境学習施設（仮称）の名称決定と東京学芸大学 吉富友恭助教授を招いて8月完成を予定している学習施設の展示パネル内容と施設内の展示物整備について、検討会参加者に対してアンケートを行いました。施設内の展示物整備に関するアンケートの方法については、意見聴取の方法にて行いました。

意見聴取の方法は、名刺サイズの何も書いていない紙に施設の中に①どんなものがあっていいか②どんなものがあっていいかという内容で、1枚の紙に1つだけ要望を記入してもらいます。
その結果を地元の立場、研究者の立場、行政の立場での意見をまとめ、整備方針をまとめます。

環境学習施設（仮称）の名称について

名前	支持数	名前	支持数
環の国づくり学習館「イダの里」	1	自然再生ビジターセンター アザメの瀬学習館	6
アザメ館 (かん・やかた)	18	自然再生ビジターセンター 松浦川環境学習館	1
松浦学習館	1	環の国づくり学習館 「アザメの瀬」	5
松浦川観察室	0	自然環境ビジターセンター アザメ学習館	1
アザメの瀬自然環境学習センター	26	アザメの瀬学習センター さんさんReぼん館	0
アザメの瀬自然環境ビジターセンター	0	松浦川環境学習センター 「満緑館(みりよくかん)」	0
松浦学習館 アザメの里	2	相知自然再生 アザメ館	15
アザメの家	4	自然再生アザメ館	20
松浦川 アザメ館	12	松浦川	

みなさんから、募集を行いさまざまな建物の名前が出されました。中でもより支持が多かったベスト3に入った名前に対しての応援説をして頂き、最終的にきまった名前は・・・



『松浦川 アザメの瀬自然環境学習センター』

つづいて、既存展示パネル及び建物の整備の検討について・・・



▼展示パネルアンケート風景



専門用語がね・・・。

あと、文字を大きくしてほしいなあ。

▲東京学芸大学 助教授 吉富友恭先生

アザメの瀬自然環境学習センター内の整備については、今後皆さんの意見をとりまとめて、建物の整備へと活かしていこうと思います。どうぞ期待で～す！！

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193
<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成17年度 Vol. 23

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol.22では第40～42回検討会の内容をお伝えしました。
Vol.23では第43～46回検討会の内容をお伝えします。

第43回アザメの瀬検討会 H17.8.24

今回は主に以下の2点について話し合いました。

1. アザメの瀬整備計画について
 - アザメの瀬の現状について報告
魚類の産卵状況、植物（柳、セイタカアワダチ等）の繁茂状況について垂直分布やクリーク内の植物の繁茂状況について説明しました。
 - 問題点は2点
 - ①陸生植物に対する対策が必要
 - ②クリークを覆う植物に対する対策が必要
 - 解決策として
 - ①池部の法面勾配をたてて、水面幅をなるべく広く確保する
 - ②クリークの断面が植物に覆われないように木柵を用いて低水路を確保する



2. 自然環境学習センター内の整備方針について
 - 前回の検討会で行ったアンケート結果を説明しました。皆さんの意見をまとめると学習センターの利用としては、右図のような役割を持ち、利用したいとの意見でした。

第44回アザメの瀬検討会 H17.9.21

今年度の工事箇所及び掘削土の搬出経路を説明しました。

工事箇所とダンプトラックの運搬経路については、以下のとおりです。

- ①稲刈り終了まで 和田山橋→和田山橋
- ②稲刈り終了後 鶴田橋→和田山橋

また、運搬車両が多く通行する8:00～17:00の時間帯については、アザメの瀬橋から通行は避けるようご協力お願いしました。

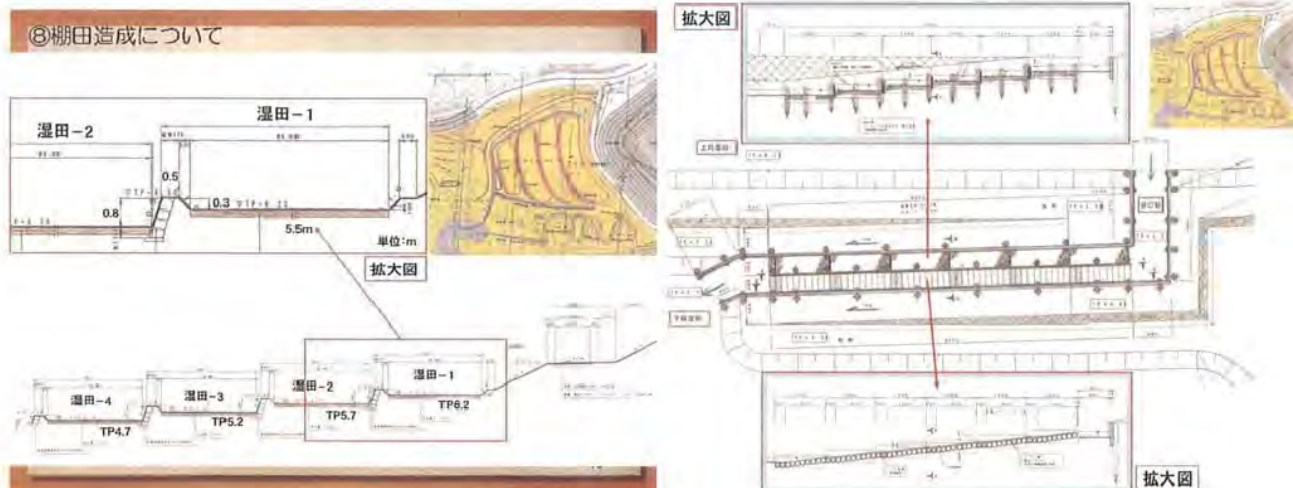


第45回アザメの瀬検討会 H17.10.20

工事の進捗状況と棚田及び魚道の構造について説明しました。

工事の状況が、前回お知らせしました期間より、現場の工程上変更となったこと、また、工事車両の運搬ルートを一〇月二五日～一十一月まで和田山橋に変更となったことのお知らせしました。また、棚田の構造と棚田とアザメ川の魚道の構造を説明しました。

⑧棚田造成について

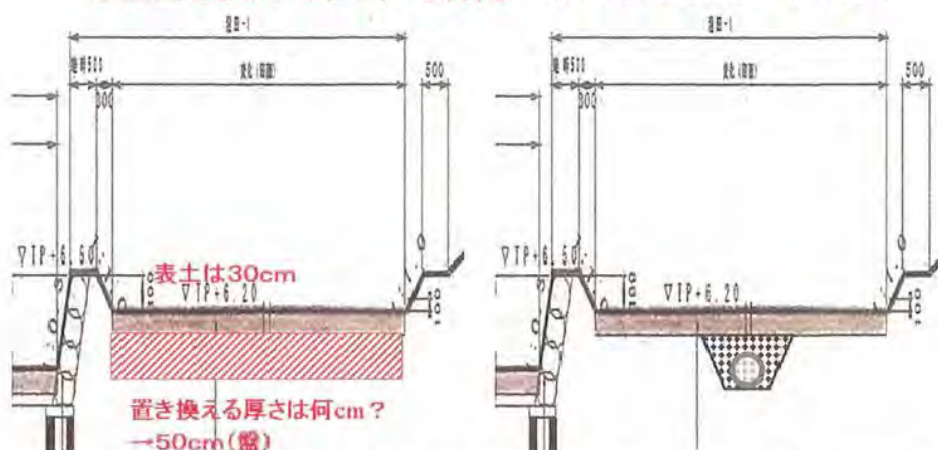


第46回アザメの瀬検討会 H17.11.24

工事を進めている棚田の土について議論しました。

第45回の検討会でお知らせしました棚田の作り方で、工事を進めていたところ柔らかい粘土の層が現地で確認されました。そこで、46回の検討会ではその対策方法について、みなさんのご意見をいただきました。その結果、柔らかい粘土の部分を一部置き換えて耕作土を置くことで決定しました。

心土置き換え（案1）を採用 排水暗渠を設置（案2）



◎また、今年度完成する棚田で来年度から作る作物について、その種類と作付期間を次回の検討会で皆さんにお聞きすることをお願いしました。

国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成17年度 Vol. 24

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol.23では第43～46回検討会の内容をお伝えしました。
Vol.24では第47～49回検討会の内容をお伝えします。

第47回アザメの瀬検討会 H18.1.17

今回は主に以下の3点について話し合いました。

〇棚田の作物についてみなさんから意見を頂きました。

基本は、みんなで苗を持ち寄り米を作る（黒米、赤米など品種の使い分け）。

みんなで協力し、田んぼを作っていきます！

〇道路の安全対策用の防護柵設置について様々な意見を頂きました。

擬木ガードレール、ガードパイプ、木製ガードレールなどを提案したところ、「自然再生事業なら人工工作物はいらん」などの意見を頂きました。しかし、自然だけでなく交通安全についても検討する必要があります。もう一度、道路管理者と話し合い、その後、みんなで話しあって決めたいと考えています。

〇クリークを覆いつつある外来植物への対策に木柵を設置します。

木柵の高さを30cmもしくは60cmがいいか話し合った結果、30cmで様子を見ることになりました。今後とも状況をみていきたいと思ひます。



第48回アザメの瀬検討会 H18.2.23

今回の検討会では工事の進捗状況、柳の植栽、魚類調査結果について説明しました。

＜柳の植栽＞

- ・オオタチヤナギを4月上旬に植栽
- ・1列で7m間隔（等間隔ではなく）



＜魚類調査結果（抜粋）＞

地点名	アザメの瀬					
調査月	No.7 クリーク上		No.8 クリーク上		No.9 池	
水温(℃)	5月	8月	5月	8月	5月	8月
河床材料	25	27	25	27	25	27
	砂	砂	砂	砂	砂	砂
確認種数	5種	11種	7種	11種	14種	17種
優占上位3種と	フナ属の一種	モツゴ	フナ属の一種	フナ属の一種	フナ属の一種	フナ属の一種
優占する	オイカワ	フナ属の一種	モツゴ	カムルチ	トショウ	オイカワ
個体群構成※	モツゴ	トショウ	ナマズ	モツゴ	オイカワ	モツゴ
河川形態	クリーク		クリーク		池	
環境特性	出水前はフナ属の一種が極めて優占的であったが、その割合も減少し、変わってオイカワ、モツゴ、トショウ等の確認が増加した。水位が上昇に伴う大型肉種の進入や中～小型魚の産卵のための進入が考えられる。					

第49回アザメの瀬検討会 H18.3.13,14

○平成17年度アザメの瀬研究報告会を開催！

今回開催した報告会は、平成15年度を第1回目とし3回目となるものです。報告会では、研究者（学識者）、NPOアザメの会及び武雄河川事務所等、全部で10課題の発表が行われました。報告会には、大学関係者、地域住民及び行政（約60名）が参加し、アザメの瀬の経済価値を算定した研究（新聞記事参照）や水質、生物、展示に至るまで幅広い研究の成果が報告されました。研究成果に対し、地域からも質問され、意見交換が行われました。



研究報告会（1日目）

現地見学会の状況（2日目）

日時 : 平成18年3月13日（月）～3月14日（火）
場所 : 佐賀県唐津市相知町 相知町交流文化センター

平成17年度 アザメの瀬 研究報告会					相知町 交流文化センター	
13日	時間	発表者	内容	備考		
	13:00	開会あいさつ				
		【受託研究者報告】				
	13:05	桜井 慎一(日本大学)	CVMによるアザメの瀬の経済価値評価に関する研究	発表15分 質疑5分		
	13:25	西廣 淳(東京大学)	アザメの瀬における植生復元への土壌シードバンク利用可能の評価			
	13:45	望月 俊宏(九州大学)	アザメの瀬再生過程における土壌養分とバイオマスの評価			
	14:05	増田 泰久(九州大学)	イネ科草本群落の成立と哺乳類の動向～特にカヤネズミの移入・定着～			
	14:25	休憩(15分)				
	14:40	山口 裕文(大阪府立大学)	アザメの瀬自然再生過程で復元する植物種の自然適性に関する生態遺伝的評価	発表15分 質疑5分		
	15:00	中島 敦史(和歌山大学)	自然再生事業による生物相復元効果の指標開発			
	15:20	島谷 幸宏(九州大学)	アザメの瀬における氾濫流と植生域の拡大について			
	15:40	吉富 友恭(東京学芸大学)	アザメの瀬の展示解説に関する方法的な研究			
	16:00	大草 理事長(NPOアザメの会)	アザメの会の現在と今後の活動状況	発表10分		
	16:10	休憩(15分)				
	16:25	尾澤 卓思(武雄河川事務所)	アザメの瀬自然再生事業における順応的整備	発表15分 質疑5分		
16:45	閉会					
14日	時間	内容	備考			
	10:00	アザメの瀬現地見学	事業経過報告及び現地見学			
	11:00	意見交換会	意見交換会(アザメの瀬自然環境学習センター内にて)			

国土交通省 九州地方整備局

武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193

<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成18年度 Vol. 25

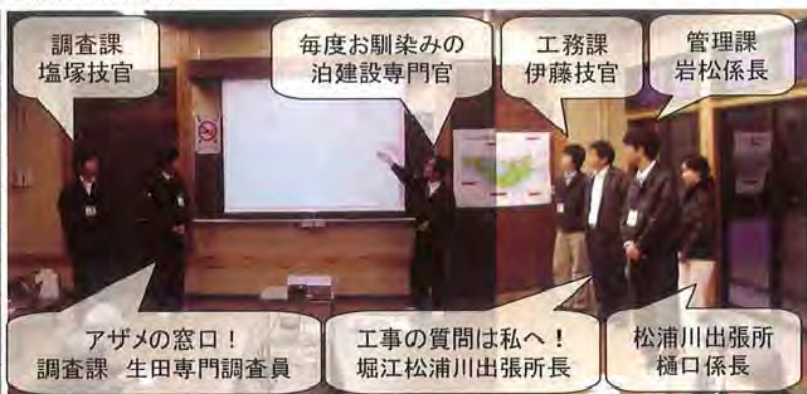
アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol.24では第47、48、49回検討会の内容をお伝えしました。
Vol.25では第50回検討会、第51回検討会の内容をお伝えします。

第50回アザメの瀬検討会！ H18.4.25

新メンバーの紹介

今年度、アザメの瀬自然再生事業に関わるメンバーを紹介しました。
一致団結して、より良い自然再生事業となるよう共に頑張ります。
よろしくお願い致します。

所属	平成17年度		平成18年度
事務所長	尾澤 卓忠	→	中平 善伸
技術副所長	後藤 信孝	→	森田 昭廣
工務課	保利 忠勝	→	田中 一美
	伊藤 博和	→	伊藤 博和
管理課	池田 忠	→	岩松 俊輔
調査課	新山 幸宏	→	塩塚 大輔
地域交流窓口	泊 耕一	→	泊 耕一
	南 知浩	→	生田 俊裕
松浦川出張所所長	平井 新太郎	→	堀江 隆一
松浦川出張所	関 信彰	→	樋口 陽子



今年度の工事実施内容について



今年度のアザメの瀬の工事内容は下記のとおりです。

- ①上池に観察デッキ（40m程度）を設置します。
 - ②クリークと上池をつなぐ水路に観察デッキを設けます。
 - ③アザメの瀬内を周遊するための散策路を整備します。
 - ④市道の防護柵設置の必要性について検討します。
 - ⑤必要に応じて、クリーク水路内の土砂撤去を行います。
- 工事実施内容のそれぞれについては、今後の検討会において、皆様よりご意見を頂きたいと考えています。
そのときは、皆様の忌憚のない意見をお願い致します。

柳の植栽について

頂いた意見

「クリーク付近は水分が多く、出水時に流れてきた枝が自然と大きくなるのではないか」
「散策道付近は子供達の休息場とした木陰が必要である」
「町道付近に植栽し大きくなれば、防護柵の変わりになるのではないか」
「クリークの松浦川側にも、西日を遮るために設置したい」
等々



このような意見を踏まえて、平成18年5月15日（月）柳の植栽を行うことが決定しました。

柳の植樹!! 河川清掃!! H18.5.15

第50回検討会において話し合ったとおり、柳を植樹することになりました。植樹は地元の方々を中心に約50名の方々に参加頂きました。

植樹の目的は、1日陰の創出による水温上昇の抑制、2外来種繁茂の抑制の2点です。

また、平成16年4月に皇太子さまがアザメの瀬をご視察されたことを記念した河川清掃がアザメの会の呼びかけで行われました。当日は洪水の後ということもあり、1時間程度で軽トラック1台分のごみが集まりました。おかげさまで大変きれいになりました。ありがとうございました。



★植樹した柳★
準備して頂いた松本さん、ありがとうございました。

参加頂いた地元の皆さん！ エイ・エイ・オー！！

第51回アザメの瀬検討会！ H18.5.30

第51回検討会では、東京学芸大学の吉富先生と正木先生、学生4人により、アザメの瀬自然環境学習センターに設置してあるパネルのリニューアル版について、実際に見て、読んで頂き、聞き取りによるアンケート調査を行いました。

文章の表現内容や、見栄え、大きさ等について、たくさんの意見を頂きました。

普通に使っている言葉が、子供達には伝わりにくかったり、字が小さく見づらい等、表現の方法について、とても参考になりました。



頂いた意見を元に修正し、今年度中には、学習センター内のパネルを一新したいと考えています。ご協力ありがとうございました。

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193
<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成18年度 Vol. 26

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。

この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。

Vol.25では第50、51回検討会の内容をお伝えしました。

Vol.26では第52回検討会【田植え】、第53回検討会の内容をお伝えします。

第52回アザメの瀬検討会！

H18.6.30

相知小5年生と田植え！～アザメの会主催～

ついにこの日がやってきました！田植えです！！

第5回検討会（H14.4.13）に初めて登場した水田構想から、早いもので4年と半年の月日が流れました。環境学習の目玉である水田が平成17年度末に完成したことで、平成18年度は今まで以上に、アザメの瀬が賑わう一年になると思います。これからもみんなで協力して頑張っていきましょう。



苗を片手に田植え歌！
大草さん



田植えの為に、汗水流して尽力頂いたアザメの会の皆様



決まっています！



休憩中…



稲の植え方を説明する
古賀さん

田植えには、相知小学校の5年生約70名が参加し、もち米の苗を植えました（うるち米の苗は、アザメの会が植えました）。秋には収穫祭が待っています。今からとても楽しみです。

どんどん成長してゆく稲とともに、子供達が大きく育つよう、見守り続けましょう。

第53回アザメの瀬検討会！ H18.8.30

○今年度のアザメの瀬の工事について

・車両用防護柵について

安全管理上、市道とアザメの瀬の法肩に、ガードレールを設置する必要があります。このため、検討会において、ガードレールの型式や色などについて話し合いました。白熱した議論の中で、以下のとおり決定しました。

- 一、型式はハイタイプ2段型
(イメージパースを参考にしてください。)
- 一、色はダークブラウン(こげ茶色)

この他に、

・支柱周辺の除草作業に配慮して、
コンクリートで周辺を固めてほしい。
との意見を頂いておりますので、工事
施工時に対応することとしています。

ロードキル(道路を通行することによる
動物への悪影響)をなるべく少なくする
よう、皆さん安全運転に心がけましょう。



ガードレールのイメージパース

・プレハブの移設について

通称「皇太子の丘」に設置しているプレハブを、
武雄河川事務所朝日出張所にコア倉庫として移設
する必要が生じました。プレハブの中には、事務所の
備品の外、アザメの会が所有する浮き輪や救命胴衣
が保存されていますので、対応をどうするか話し合
いました。

その結果、快く「旧佐里小に持って行く」という
ことで了解して頂き、ありがとうございます。
移動する際は、お手伝いをさせていただきます。



検討会の様子

○第9回「川の日」ワークショップ 結果報告

平成18年7月22、23日東京都渋谷区代々木の国立オリンピック記念青少年総合センターにおいて、
第9回「川の日」ワークショップが開催されました。

全国つつうらうら、53団体参加の中、アザメの会は見事入選(19位以内)を果たしました。
おめでとうございます。パチパチパチ(拍手！)

下の写真は、そのときの様子です。



熱のこもった説明を行う大草さん



ア・ザ・メ・の・瀬・自然・再生
を猛アピール！



敗者復活戦！
見事勝ち上がり入選を果たす！！

ワークショップに参加頂いた皆様、大変お疲れ様でした。来年は子供達による発表を行うと、もっといい成績
が収められるのではないかとのご意見がありました。

今後みんなでアザメの瀬を盛り上げていきましょう。

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193
<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成18年度 Vol. 27

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol.26では第52回検討会【田植え】、第53回検討会の内容をお伝えしました。
Vol.27では第54回検討会【堤返し】、第55回検討会の内容をお伝えします。

第54回アザメの瀬検討会！ H18.10.8 伝統行事「堤返し!!」～アザメの会主催～

アザメの瀬環境学習センターの上流にあるため池において、伝統行事である「堤返し」が行われました。
当日は晴天に恵まれ、絶好の魚採り日和でした。ため池の水抜きが遅れ、1週間前から急遽ポンプ排水を実施したアザメの会の皆さんの安心する顔を横目に、おそろおそろため池へと入る子供達。

次第に慣れはじめ、魚を追いつめる子供達！捕ったどー！！！！！！！！！！
ため池の底には、堆積した泥により足が抜けなくなり「助けて～“おじちゃん”！」（おじ・・・）
網を使わず手づかみでコイを捕る子や泥投げをして遊ぶ子、子供に返って必死になって魚を追いつめる大人。
そんな笑顔満載な場面をお届けします。



おいしいー！！

コイやフナは大量、ウナギも1匹捕れました。
捕ったあとはもちろん食べる！「昔はよく川に入り、料理して食べたよなー。」昔話に華を咲かせながら鯉こく・鯉のあらい・蟹ご飯などに舌鼓を打ちながら、楽しく頂きました。
来年の堤返しが今からとても楽しみです。

第55回アザメの瀬検討会！ H18.10.30

○アザメの瀬サイン計画について

今年度2回目の登場となった、東京学芸大学の吉富先生と正木先生、その教え子である嶽さんにより、アザメの瀬の案内看板（通称：サイン）の説明を行いました。

過去の検討会において数回の議論を重ねてきましたサインを、今回は実際に現地に設置して皆様のご意見を頂きました。今後のアザメのより良い発展のために、頂いた意見を元に検討を進めさせていただきます。



熱心に耳を傾ける地元の方々



遠方から視認性を確認



近方から視認性を確認

●頂いた意見

- ・サインをもっと大きくしてはどうか。
- ・平面では見る角度によって分かりづらいため、立体にしてはどうか。
- ・色は赤が一番目立つね。
- ・鮮やかなデザインで楽しいね。
- ・今日のように、実際に物を見ると、色々な意見が出てくるね。今の段階ではこれでいいんだよ。

総勢23名が熱く議論！



ヨロシクお願いします



吉富先生

正木先生

嶽さん

○第6回九州川のワークショップin川内川 結果報告

平成18年10月28・29日薩摩川内市において、第6回九州川のワークショップが開催され、参加者から喜びの声を伝えて頂きました。参加44団体中、相知町から2団体が入賞！！パチパチ（拍手）



大賞：自然と暮らしを考える研究会

喜びを語る多々良さん



佐賀新聞社賞：アザメの会

熱く語る山口さん



発表の様子

大賞を取られた自然と暮らしを考える研究会、おめでとうございます。

アザメの会の今後の活躍に期待！みんなで、協力して頑張っていきましょう！！

○今後の行事について (主催：アザメの会)

11月10日（金）

13：00～「セイタカアワダチ草除草作業」

14：00～「稲刈り」

皆さんお気づきのセイタカアワダチ草のはびこり具合にびっくりの今日この頃。何とかしなくては！

ということで、泊建設専門官発案、大草理事長賛同のもと、セイタカアワダチ草の除草作業を稲刈り前に行います。

みんなでアザメをきれいにしましょう。

○今後の工事について

請負業者：佐伯建設（株）

代理人：池田 好弘氏

「よろしくお願いします。」

工事内容：モニタリング道路

：観察デッキ

：車両用防護柵

：プレハブの移設

詳細な工程は現在打合せ中につき、次回の検討会において、報告させていただきます。

工事に関して、何かわからないことがあったら、ガンガン質問して下さい。

国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193
<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>



アザメ新聞

平成18年度 Vol. 28

アザメ新聞は相知町佐里下地区で行われている自然再生事業の進展をお伝えする新聞です。
この事業は住民参加の事業で、どなたでも検討会に参加できます。
Vol.27では第54回検討会【堤返し】、第55検討会の内容をお伝えしました。
Vol.28では第56回検討会の内容をお伝えします。

第56回アザメの瀬検討会！ H18.12.8

◆主な議題◆

- ・モニタリング道路の舗装色について
- ・ガードパイプの形状・色について
- ・栈橋（上池に設置）の構造について

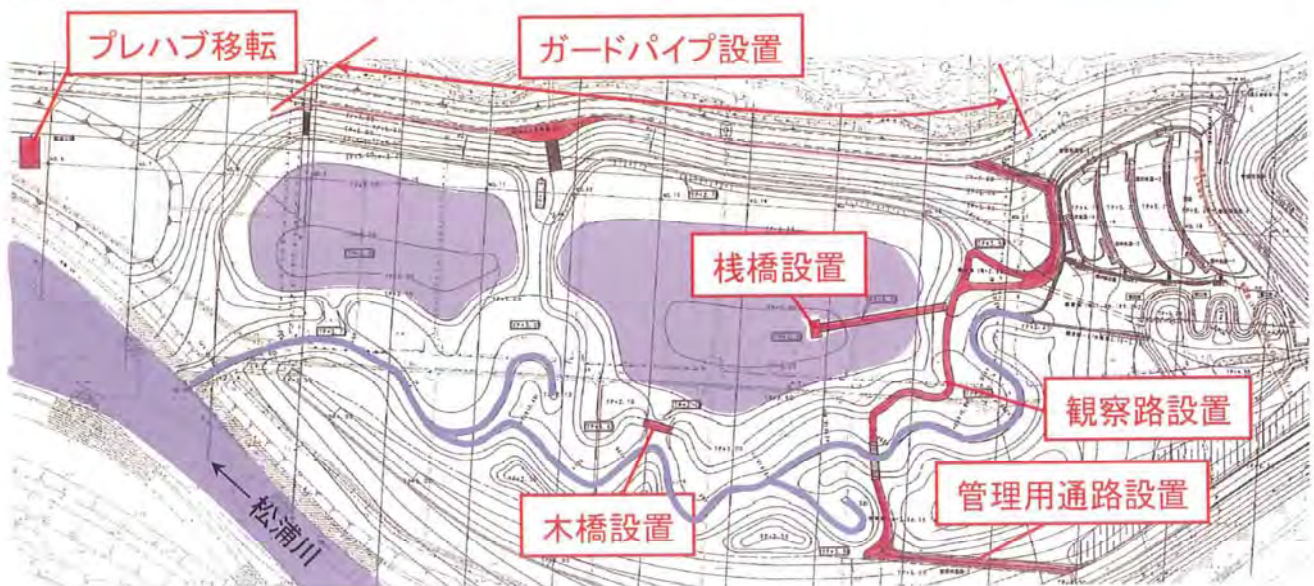
検討会では、今年度に工事を実施する上記項目ついて議論しました。今回は、**観察路の舗装とガードパイプ**について、サンプル（舗装・塗装）や写真を実際に見ながら、**色や形状を確認**しました。**栈橋**については、図面でデッキや基礎の**構造について確認**しました。



検討会の様子（舗装の色をサンプルで確認）

H18年度 アザメの瀬【工程表】

	10月	11月	12月	1月	2月	3月
準備工		着工前測量・仮設工				
管理用通路設置				掘削・盛土・法面整形		
観察路設置				路盤・舗装		
栈橋設置			製作・杭打ち	栈橋組立		
木橋設置				製作・杭打ち	木橋組立	
ガードパイプ設置					設置	
プレハブ移転			準備	移設		
片付け						



H18年度工事箇所位置図

○ モニタリング道路の舗装（色について）

今年度施工するモニタリング道路（観察路）の舗装の色について、サンプルで確認しました。今年度施工する舗装は、現況の舗装の色に近い「土系舗装（着色なし）」にて施工することとなりました。

● 検討会での意見

- ・今年度施工は、現況の舗装の色に近い方がよい。
- ・今年9月の出水では、舗装の目地から目地で被災しているため、施工の際には気を付けるべき。

今年度施工予定
（土系舗装着色なし）



現況の舗装
（アザメの瀬観察路）



○ ガードパイプ（形状・色について）

今年度施工するガードパイプの形状・色について、塗装サンプル、カタログ等で確認しました。今年8月30日開催の第53回検討会で議論しましたが、ガードパイプは安全管理上必要なため、アザメの瀬山側にある市道（平山佐里線）沿い約200mの区間に設置します。

今回の検討会では、写真左下にある型式のガードパイプ（塗装はブラウン）で施工実施することが決定されました。また、ガードパイプ完成後、維持管理として行う除草の際（肩掛け式草刈り機等）、作業の効率化や安全対策（草に隠れたパイプと機械の接触防止）のため、パイプ周辺にコンクリートを打設する提案がありました。

施工イメージ
（ガードパイプ部分のみ）

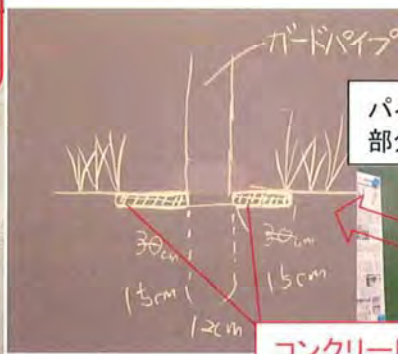


※パイプ下のコンクリート部分は、今回の施工方法と異なります。

今年度施工
（ブラウン）

ベージュ

グレー



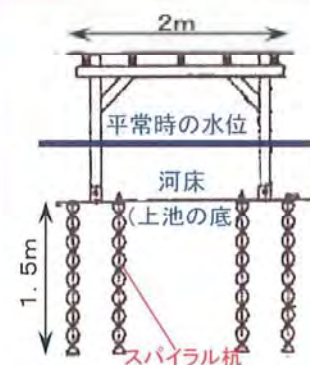
除草時の危険
防止対策案

パイプ下のコンクリート
部分について提案

コンクリート打設（15cm程度）

○ 栈橋（木製）の構造について

今年度施工する観察用デッキについて、図面で構造や大きさ等を確認をしました。上池に設置する木製の栈橋は、洪水時の浮き上がり防止対策として、基礎部分に有明海でも実績のあるスパイラル杭を施工します。



○ その他（棚田の排水改善等について）

アザメの瀬の棚田は、今年度から相知小学校5年生の環境学習の場として活用されており、田植えから稲刈りまで実施されました。しかし、上2段の棚田は排水性が良くないうえ、最上段部については水路からの水が伏流している可能性があるとの意見が出ました。そこで、検討会参加者で現状を確認しました。対策方法については、今後の検討会で議論する予定です。

また、12月26日にアザメの瀬学習センター及プレハブ内の大掃除、セイタカアワダチソウ駆除をみんなで行うこととなりました。



国土交通省 九州地方整備局
武雄河川事務所

Tel 0954-23-7933 Fax 0954-23-5193
<http://www.qsr.mlit.go.jp/takeo/>